宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 松林遺跡

(第2次調査)

2004年9月

高 松 市 教 育 委 員 会株式会社 ユーリックホーム



噴 礫 断 面

- 1. 本報告書は、株式会社ユーリックホームが施工する宅地造成工事に伴う発掘調査報告書で、高松市多肥上町に所在する松林遺跡(まつばやしいせき)の報告を収録した。
- 2. 発掘調査地ならびに調査期間は次の通りである。

調 査 地:高松市多肥上町 1200 ほか

発掘調査: 平成 16 年 4 月 1 日~平成 16 年 4 月 12 日 整理作業: 平成 16 年 4 月 14 日~平成 16 年 9 月 30 日

- 3. 発掘調査及び整理作業は高松市教育委員会が担当し、その費用は株式会社ユーリックホームが全額負担した。
- 4. 発掘調査は高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員大嶋和則が担当し、中西克也(讃岐文化遺産研究会)と大朝利和が補佐をし、整理作業は大嶋が担当した。
- 5. 本報告書の執筆・編集は大嶋が行った。
- 6. 発掘調査から整理作業,報告書執筆を実施するにあたって,下記の関係諸機関ならびに方々からご 教示を得た。記して厚く謝意を表すものである。(五十音順,敬称略) 香川県教育委員会、片桐孝浩、佐藤竜馬、林田真典、松本和彦
- 7. 発掘調査から整理作業、報告書執筆まで下記の方々の協力を得た。記して厚く謝意を表すものである。(敬称略)

阿部亮太・川嶋一成・中村茂央(徳島文理大学)

- 8. 挿図として、国土地理院発行 1 / 25,000 地形図「高松南部」を一部改変して使用した。
- 9. 本報告の高度値は海抜高を表し、方位は世界測地系の北を示す。
- 10. 本書で用いる遺構の略号は次の通りである。

SB:掘立柱建物 SD:溝 SK:土坑 SP:柱穴

11. 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

# 本文目次

第1章 訴	骨重の経緯と経過	
第1節	調査の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第2節	調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第3節	整理作業の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2章 地	b理的・歴史的環境	
第1節	地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第2節	歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
第3章 調	周查成果	
第1節	調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第2節	調査地の概要と基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
第3節	遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
第4章 ま	ミとめ	
第1節	遺構の変遷について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	56
第2節	高松市における検出された地震痕跡について・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5	57
観 察 表		3C

報告書抄録

写真図版

# 挿図目次

第 1 図	調査地及び周辺遺跡位置図・・・・・・ 2	第 31 図	SD7 平·断面図 · · · · · · 32
第 2 図	試掘調査地位置図 (S=1/500) · · · · · 3	第 32 図	SD8 平·断面図 · · · · · 33
第 3 図	調査区グリッド割図・・・・・・ 6	第 33 図	SD9 平・断面図及び出土遺物実測図 · · · · · 34
第 4 図	調査区平面図 (S=1/250) · · · · · 7	第 34 図	SD10 断面図及び出土遺物実測図 · · · · · · 34
第 5 図	遺構配置図① (S=1/100) · · · · 9	第 35 図	SD11 断面図及び出土遺物実測図 · · · · · · 35
第 6 図	遺構配置図② (S=1/100) ・・・・・・・・・・・ 10	第 36 図	検出溝平·断面図① · · · · · 35
第 7 図	遺構配置図③ (S=1/100) ・・・・・・・・・・・・ 11	第 37 図	検出溝平·断面図② · · · · · 36
第 8 図	遺構配置図④ (S=1/100) ・・・・・・・・・・・・ 12	第 38 図	SD17 平面図 · · · · · · 37
第 9 図	遺構配置図⑤ (S=1/100) ・・・・・・・・・・・・ 13	第 39 図	SD17 断面図 · · · · · · 38
第10図	遺構配置図⑥ (S=1/100) ・・・・・・・・・・・・ 14	第 40 図	SD17 土器出土状況図① · · · · · 39
第11図	遺構配置図⑦ (S=1/100) ・・・・・・・・・・・・ 15	第 41 図	SD17 土器出土状況図② · · · · · 40
第12図	調査区東部西壁土層断面図①・・・・・・16	第 42 図	SD17 土器出土状況図③ · · · · · 41
第13図	調査区東部西壁土層断面図②・・・・・・17	第 43 図	SD17 土器出土状況図④ · · · · · 42
第14図	調査区南部北壁土層断面図・・・・・・・18	第 44 図	SD17 上層出土遺物実測図① · · · · · 43
第 15 図	調査区西部西壁土層断面図①・・・・・・・19	第 45 図	SD17 上層出土遺物実測図② · · · · · · · 44
第 16 図	調査区西部西壁土層断面図②・・・・・・ 20	第 46 図	SD17 中層出土遺物実測図① · · · · · 45
第17図	SB1 平·断面図······21	第 47 図	SD17 中層出土遺物実測図② · · · · · · · 46
第 18 図	SB2 平·断面図······22	第 48 図	SD17 下層出土遺物実測図① · · · · · · 47
第 19 図	検出土坑平·断面図①······24	第 49 図	SD17 下層出土遺物実測図② · · · · · · · 48
第 20 図	SK8 平・断面図及び出土遺物実測図・・・・・・ 25	第 50 図	SD17 下層出土遺物実測図③ · · · · · 49
第21図	検出土坑平·断面図②······27	第 51 図	SD17 下層出土遺物実測図④ · · · · · · · 50
第 22 図	SK16 平・断面図及び出土遺物実測図・・・・・28	第 52 図	SD17 下層出土遺物実測図⑤ · · · · · 51
第 23 図	検出土坑平·断面図③······28	第 53 図	検出溝平·断面図③····· 52
第 24 図	SP1 平・断面図及び出土遺物実測図 ・・・・・ 29	第 54 図	SD20 断面図及び出土遺物実測図 · · · · · · 53
第 25 図	SP15 平・断面図及び出土遺物実測図 ・・・・・ 29	第 55 図	SD23 断面図及び出土遺物実測図 · · · · · · 53
第 26 図	SD1 平・断面図及び出土遺物実測図 ・・・・・ 30	第 56 図	噴礫 1・噴礫 2 平・断面図・・・・・・・ 54
第 27 図	SD2 平・断面図及び出土遺物実測図 ・・・・・ 31	第 57 図	噴礫 3・噴礫 4 平・断面図 ・・・・・・・55
第 28 図	SD3・SD4 平・断面図 ・・・・・ 31	第 58 図	地震検出遺跡位置図・・・・・・57
第 29 図	SD5 断面図 · · · · · 32	第 59 図	高松平野の出水分布・・・・・ 59
第 30 図	SD6 断面図及び出土遺物実測図 ・・・・・・ 32		

# 挿表目次

## 写真図版目次

写真 1	試掘状況(3Tr)
写真 2	試掘状況(9Tr)
写真 3	機械掘削状況
写真 4	遺構検出状況
写真 5	調査区北東部完掘状況(北から)
写真 6	調査区東部中央完堀状況 (北西から)
写真 7	調査区南東部完掘状況(北から)
写真 8	調査区南東部完掘状況(南から)
写真 9	調査区南部完掘状況(西から)
写真 10	調査区西部完掘状況(南から)
写真 11	調査区西部完掘状況(北から)
写真 12	SB1 半裁状況(西から)
写真 13	B1 完掘状況(東から)
写真 14	SB2 完掘状況(東から)
写真 15	SK8 断面(北から)
写真 16	SK8 土器出土状況(南から)
写真 17	SK8 完掘状況(南から)
写真 18	SP1 土器出土状況 ( 西から )
写真 19	SP15 土器出土状況 ( 南から )
写真 20	SK18 断面(南から)
写真 21	SD1 完掘状況(東から)
写真 22	SD2 断面(東から)
写真 23	SD2 完掘状況(東から)
写真 24	SD3・4・SB2 断面(東から)
写真 25	SD8 完掘状況(南西から)
写真 26	SD9 完掘状況(南西から)
写真 27	SD9 土器出土状況(南から)
写真 28	SD10 完掘状況(南から)
写真 29	SD10 断面(南から)
写真 30	SD11 完掘状況(南から)
写真 31	SD15 断面(南から)
写真 32	SD15 完掘状況(南から)
写真 33	SD16・17 完掘状況(南東から)
写真 34	SD17 南部断面(南から)
写真 35	SD17 南部完掘状況(南から)
写真 36	SD17 土器 32 出土状況(南から)
写真 37	SD17 完掘状況(南から)
写真 38	SD17 中部断面(南から)
写真 39	SD17 土器 66 出土状況(南から)
写真 40	SD17 土器 37 出土状況(南から)
·	

SD17 土器 64 出土状況 (西から)

写真 41

写真 42 SD17 北部断面(南から) 写真 43 SD17 完掘状況(南から) 写真 44 SD17 完掘状況 (北から) 写真 45 SD17 完掘状況 (北東から) 写真 46 SD17 掘削状況 (南から) 写真 47 SD17 木器出土状況 (北から) 写真 48 SD17 土器 69 出土状況 (東から) 写真 49 SD17 土器 126 出土状況 (南から) 写真 50 SD17 土器 149 出土状況 (南から) 写真 51 SD17 土器 213 出土状況 (南から) 写真 52 SD17 土器 89 出土状況 (西から) 写真 53 SD20・23 断面(北から) 写真 54 SD24 断面(東から) 写真 55 噴礫1・2断面(東から) 写真 56 噴礫4断面(東から) 松林遺跡出土遺物① 写真 57 写真 58 松林遺跡出土遺物② 写真 59 松林遺跡出土遺物③ 写真 60 松林遺跡出土遺物④ 写真 61 松林遺跡出土遺物⑤

### 第1章 調査の経緯と経過

#### 第1節 調査の経緯

株式会社ユーリックホームが計画する宅地造成工事に関し、予定地内における埋蔵文化財包蔵地の有無について照会があった。高松市教育委員会では工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である松林遺跡に隣接し、その集落遺跡から続く微高地上に所在していることから集落域が広がっている可能性が高いと考え、株式会社ユーリックホームに対し、「周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、包蔵地に隣接していることから、遺跡が存在する可能性が極めて高く、工事着手後に遺跡が発見された場合は工事の進捗に多大な影響を及ぼす可能性もあるため、工事着手前に試掘確認調査を実施することが望ましい。」と説明を行い、任意協力をお願いしたものである。

株式会社ユーリックホームと協議の結果、事前に試掘調査を実施することで合意した。宅地造成工事の内、宅地部分については盛土を行うことから地下遺構に影響は無いが、道路部分については掘削を伴い地下遺構に影響を及ぼす可能性が高く、また永久構造物となることから、道路部分の1,350m²を対象地とし、平成16年3月29日に試掘調査を実施した。12本のトレンチ調査の結果、全トレンチで弥生時代~江戸時代にかけての遺構・遺物を確認することができた。高松市教育委員会は平成16年3月31日に香川県教育委員会に対し確認調査結果を送付するとともに、土地所有者兼造成工事の施工者である株式会社ユーリック興産から提出された埋蔵文化財発掘の届出(文化財保護法第57条の2第1項)を進達した。同日に、香川県教育委員会より、周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について、発掘調査実施の旨の回答が高松市教育委員会にあり、株式会社ユーリック興産に伝達した。

これを受け、高松市教育委員会は株式会社ユーリックホームと試掘調査結果をもとに協議を行った結果、遺構の希薄な第 1・第 11・第 12 トレンチを除く、第 2~第 10 トレンチ部分の約 800m² について工事着手前に発掘調査を実施することで合意し、平成 16年3月31日に埋蔵文化財調査協定書を締結した。業務名は「宅地造成工事に伴う埋蔵文化財調査管理業務」とし、高松市教育委員会は発掘調査・整理作業の実務を行い、その費用負担および契約・支払事務については株式会社ユーリックホームが行うこととした。平成 16年5月20日が造成工事完了予定であったことから、株式会社ユーリックホームから発掘調査の早期着手を求められ、協議の結果、4月1日~14日を発掘調査期間、4月15日~平成17年3月31日を整理作業期間とした。結果的には、平成16年9月30日に全作業を完了した。

#### 第2節 調査の経過

発掘調査は平成16年4月1日から開始した。調査終了箇所から工事を実施していくため、事前の施工業者との打ち合わせにより、北東部から調査を終了させていくこととなり、調査区の北東部を5日間、南東部から南部を5日間、西部を4日間の工程で調査を実施することで合意した。幸いにも好天に恵まれ、調査区の北東部は4月5日、南西部から南部については4月8日にそれぞれ調査を終了し、4月12日に全体の調査が終了した。

#### 第3節 整理作業の経過

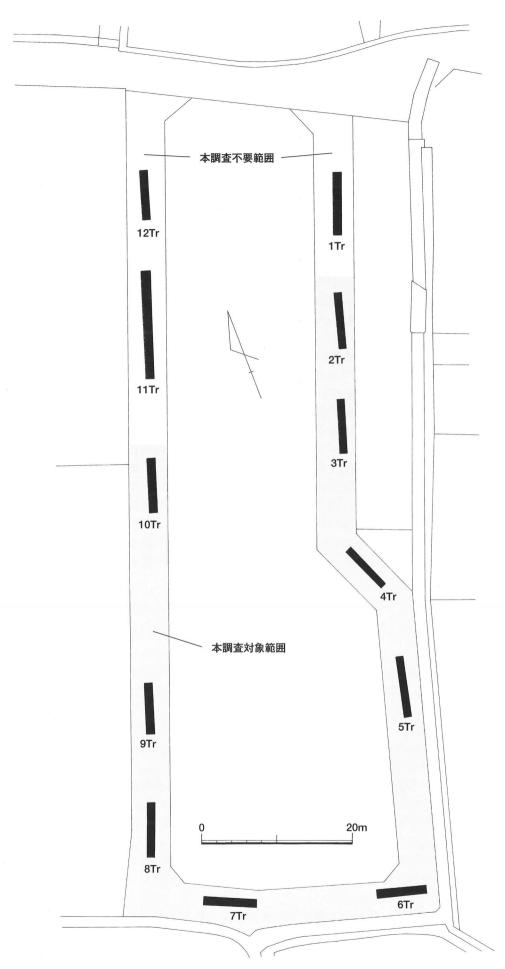
整理作業は平成16年4月15日から実施し、7月31日に整理作業は終了した。その後、報告書執筆作業を行った。詳しい工程表は以下のとおりである。

表 1	整理作業	工程表

	4月	5月		6月		7月		8月		9月	
洗 浄											
接合・復元											
実 測											
トレース											
写真撮影 レイアウト											
レイアウト											
執筆・編集				7 35							



第1図 調査地及び周辺遺跡位置図



第2図 試堀調査地位置図 (S=1/500)

### 第2章 地理的 · 歷史的環境

#### 第1節 地理的環境

高松市は香川県の中央やや東寄りに位置し、市域の大部分は讃岐平野の一部を形成する高松平野が広がっている。南部に讃岐山脈の北縁がかかり、東部に屋島、立石山塊、南西部に石清尾山、浄願寺山、白峰、堂山の山系が連なる。いずれも讃岐山脈の基盤である洪積台地と同じ地層からなるメサ、あるいはビュート型の溶岩台地で、20~300mの低い山地である。北方はひらけ、瀬戸内海に面し、男木島、女木島、大槌島、小槌島などの島をも市域に含み、備讃瀬戸を挟んで岡山県と対峙する。

高松平野は、讃岐山脈より流れ出た諸河川が運んだ土砂によって形成された沖積平野である。高松平野には、西から本津川、香東川、御坊川、詰田川、春日川、新川といった河川が北流しているが、なかでも香東川が平野の形成に最も大きな影響を及ぼしており、現存の春日川以西が香東川による沖積平野といわれている。現在、石清尾山塊の西側を直線状に北流する香東川は17世紀初めの河川改修によるもので、それ以前には現在の香川町大野付近から東へ分岐した後、石清尾山塊の南側から回り込んで、平野中央部を東北流するもう一本の主流路が存在していた。この旧流路は、現在では水田地帯及び市街地の地下に埋没してしまっているが、空中写真等から、林から木太地区にかけての分ヶ池、下池、長池、大池、ガラ池を結ぶ流路等数本の旧河道が知られており、発掘調査でもその痕跡が確認されている。なお、17世紀の廃川直前の流路は、御坊川として今でもその名残りをとどめている。

高松平野を流れる諸河川は、南の讃岐山脈から平野での流入口で穏やかな傾斜を持つ扇状地形の沖積平野を形成し、農耕に適した地味豊かな土壌をもたらしたが、諸河川の中流域は伏流し、表層は涸れ川になることが多く、早くからため池を造築して水不足を解消してきた。山間の洪積台地と洪積層の境目に多くのため池が分布する。これらのため池は、年間1,000mm 前後と降水量の乏しい讃岐平野において農業用水確保のために不可欠なものである。また、今回の調査地である多肥地区周辺は、ため池に加えて出水(ですい)と呼ばれる自噴地下水脈の利用が盛んで、両者を併用した特徴的な配水網と厳格な水利慣行を伝えてきた。調査地周辺では、栗木出水、平井出水、鈴木出水等が見られる。しかし、昭和50年の香川用水の通水によって、一帯は三郎池の受益範囲に取り込まれ、農業用水の確保の不安が払拭された反面、地元水源を核とした水利慣行が急速に消滅するとともに、ため池や出水の水源自体もその役割を失いつつある。

#### 第2節 歷史的環境

高松平野では、ここ 10 数年間の大規模な開発事業(高松東道路建設事業、空港跡地開発事業等)の事前調査により、遺跡数が飛躍的に増大しつつある。特に、今回の調査地の多肥上町松林周辺においては、香川県立桜井高等学校や都市計画道路の建設等に伴う発掘調査が行われ、面的に遺跡の広がりや内容が判明している地域である。高松平野の歴史的環境は他の報告書に譲ることとし、ここでは周辺の調査について述べる。旧石器・縄文時代の遺跡は、今回の調査地周辺では遺跡は知られていない。松林遺跡や多肥松林遺跡の旧河道中からわずかに縄文時代晩期の遺物が出土している程度である。当該期の遺跡は高松平野全体でもほとんど知られておらず、不明な点が多い。

弥生時代前期になると、多肥松林遺跡で溝が検出されているほか、松林遺跡では集石遺構が見られる。中期中葉になると、香川県立桜井高等学校の中心部を南から北へ流れる自然河道が埋没を始めている。この流路から土器とともに、鳥形木製品、木製農具等が出土している。流路の両岸には掘立柱建物や竪穴住居が営まれており、特に流路東側の集落域は日暮・松林遺跡まで広がっている。この時期には多肥松林遺跡の北西部において洪水砂層、松林遺跡において地震の液状化現象である噴礫が認められ、自然災害があったことを物語っている。中期後半〜後期前半には遺構・遺物ともほとんど見られない。後期後半には日暮・松林遺跡において竪穴住居が多数検出されている。

弥生後期中葉以降には、幅5m程度の灌漑水路が多数掘削されており、古墳時代前期で埋没するものもあるが、古墳時代後期までの遺物を含む溝も存在する。また、日暮・松林遺跡や多肥宮尻遺跡においては古墳時代中期末~後期前半の土器や木製品を包含する自然河道が検出されている。一方、古墳時代の集落域や古墳については不明である。

平安時代には周辺の自然河道の埋没がほぼ完了しており、多肥松林遺跡において掘立柱建物や溝が掘削されており、溝からは斎串が多量に出土している。

中・近世においては条里地割の溝や掘立柱建物が検出されている。特に松林遺跡では香川郡の一条と二条の条界溝が検出されている。また、日暮・松林遺跡においては多量の瓦器埦が出土している。

#### 周辺の調査履歴 (~2004.6.30)

/月之。/  月日/  後江上 ( 2001.0.0	٠,			
遺跡名	調査期間	面積	調査機関	文献
松林遺跡(通学路)	1995. 5. 19~1995. 11. 8	1, 000 m²	高松市教育委員会	1, 2
松林遺跡(宅地造成)	2004. 4. 1~2004. 4. 12	800 m²	高松市教育委員会	本書
多肥松林遺跡(高校)	1993. 4. 26~1994. 9. 6	17, 600 m²	(財) 香川県埋蔵文化財調査センター	3~5
多肥松林遺跡(高松土木)	1994. 10. 1~1995. 3. 31	5, 900 m²	(財) 香川県埋蔵文化財調査センター	6
多肥松林遺跡(県道)	1997. 4. 1~1997. 12. 31	7,000 m <sup>2</sup>	(財) 香川県埋蔵文化財調査センター	7
日暮・松林遺跡(都市計画道路)	1993. 11. 15~1995. 9. 29	11, 600 m²	高松市教育委員会	8~11
日暮・松林遺跡(済生会)	2002. 5. 12~2002. 7. 31	2, 200 m²	高松市教育委員会	12~14
日暮・松林遺跡(農道)	2004. 5. 12	70 m²	高松市教育委員会	未刊
日暮・松林遺跡(特養ホーム)	2004. 6. 23~調査中	1,500 m <sup>2</sup>	高松市教育委員会	未刊
多肥宮尻遺跡 (都市計画道路)	1997. 4. 1~1999. 9. 30	12, 245 m²	(財) 香川県埋蔵文化財調査センター	15~17

#### 既存報告書

#### 松林遺跡

- 1. 「松林遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成7年度』香川県教育委員会1996
- 2. 『香川県立高松桜井高校周辺通学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 松林遺跡』高松市教育委員会 1996

#### 多肥松林遺跡

- 3. 『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 多肥松林遺跡 平成5年度』香川県教育委員会 1994
- 4. 『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 多肥松林遺跡 鹿伏・中所遺跡 平成 6 年度』香川県教育委員会 1995
- 5. 『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 1 冊 多肥松林遺跡』(財) 香川県埋蔵文化財調査センター 1999
- 6. 『高松土木事務所新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 多肥松林遺跡』香川県教育委員会 1995
- 7.「多肥松林遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成 9 年度』(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998

#### 日暮・松林遺跡

- 8. 「日暮・松林遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成 5 年度』香川県教育委員会 1994
- 9. 「日暮・松林遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成 6 年度』香川県教育委員会 1995
- 10. 「日暮・松林遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成7年度』香川県教育委員会 1996
- 11. 『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 日暮・松林遺跡』高松市教育委員会 1997
- 12. 「日暮・松林遺跡」『高松市内遺跡発掘調査概報平成 14 年度』高松市教育委員会 2003
- 13. 「日暮・松林遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成 14 年度』香川県教育委員会 2003
- 14. 『香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡(済生会)』高松市教育委員会 2003 多肥宮 尻遺跡
- 15. 「多肥宮尻遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成 9 年度』(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1998
- 16. 「多肥宮尻遺跡」『県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成 10 年度』(財)香川県埋蔵文化財調査センター 1999
- 17. 「多肥宮尻遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成 11 年度』(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2000

### 第3章 調查成果

#### 第1節 調査の方法

調査地の北側は平成7年度に調査を実施した通学路(市道多肥上町51号線)に面しており、宅地造成部分の道路は宅地造成地の外周にあたることから、調査区は北側が開いたコの字となった。なお、調査終了部分から造成工事を行っていくことから、北東部、南東部、南部、西部の4地区に分け、順次調査を行った。

試掘調査時に、調査地北端では近世の遺構面を確認していたが、調査期間が短く、試掘調査においても溝1条しか検出していなかったことから、近世の遺構面の調査は実施せず、重機により地山面まで掘り下げ、遺構検出にあたった。調査区の幅が4~5mの調査であるが、現況の地割りに合わせて、10mのグリッド設定を行い、測量・遺物の取り上げを行った。測量は平板測量による1/50図化を基本としたが、主要遺構や遺物の出土状況図、土層断面図等は適宜手書きによる1/10及び1/20図化を行った。なお、調査終了後に宅地造成工事で使用する4級座標を基準に座標計算を行い、座標との整合を測った。

#### 第2節 調査地の概要と基本層序

調査地の調査前の状況は、南北2枚の 水田となっており、標高は南側の水田が約 22.3m, 北側が約22.0mを測る。遺構面 の標高は南端で約22.1 m, 北端で約21.4 mを測り,高低差は70cmで,北側に向かっ て緩やかに下がる地形である。

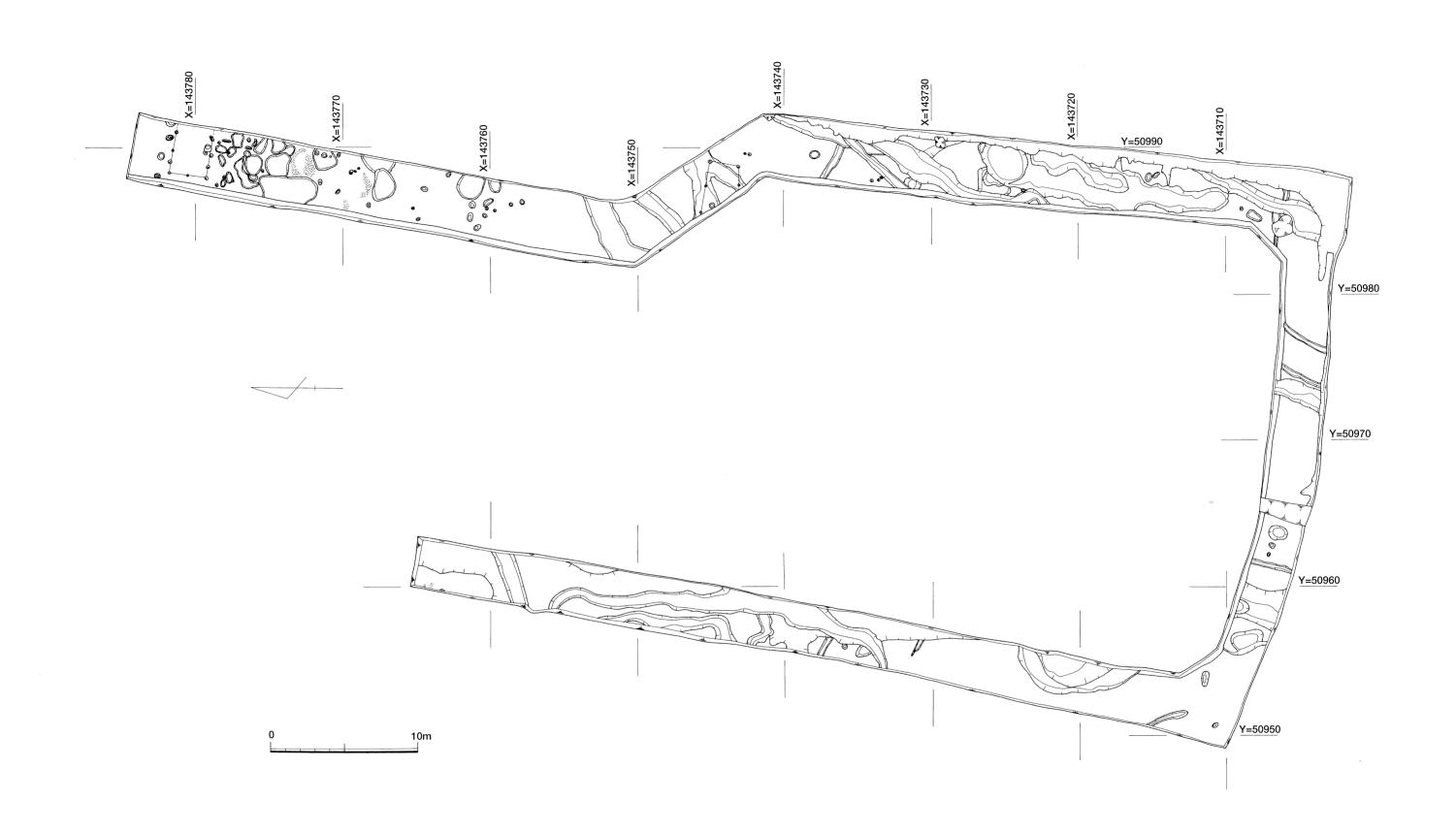
調査区がコの字であることから、土層図は北東部及び南東部の西面、南部の北面、西部の西面の3面で作成した。南部では、厚さ約20cmの耕作土直下において地山の浅黄色シルト〜粘土層が検出された。南東

X=143780 第 5図 X=143770 X=143760 第6図 X=143750 X=143740 15 · 16 図 X=143730 第 12 · 図 13 X=143720 第9図 第8図 第14図 X=143700 20m

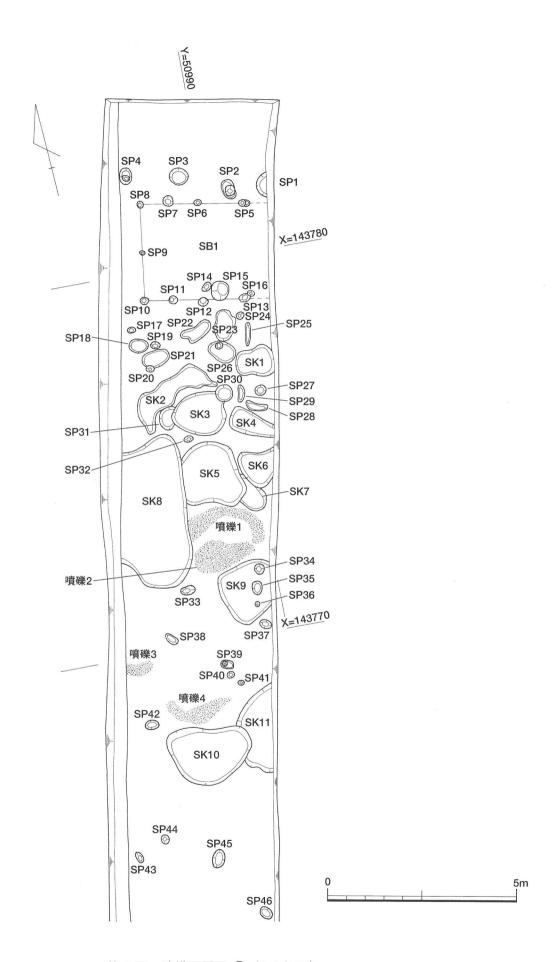
第3図 調査区グリッド割図

部や西部の南半では耕作土層の下層に厚さ数 cm のにぶい橙色及びにぶい黄褐色砂混粘質土の床土層が堆積している。北東部や西部北半においては、この床土層の下層に弥生土器等を含む褐灰色砂混粘質土の包含層が堆積しており、北側ほど堆積層が厚くなっている。

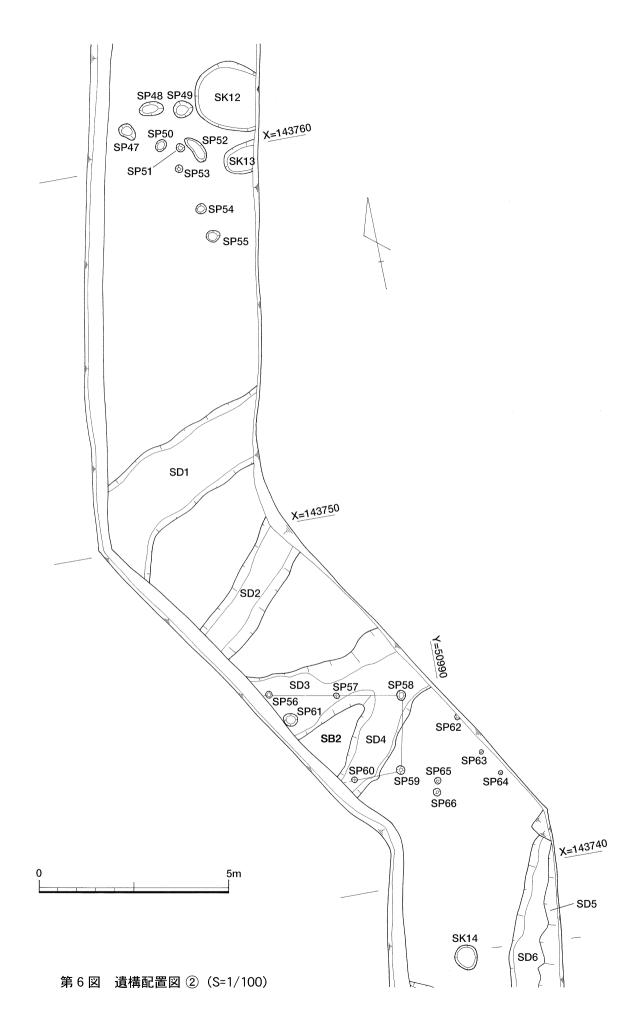
遺構面は包含層上面と地山となる浅黄色シルト〜粘土層上面の2面において確認した。なお、包含層上面の遺構面は先述のとおり、試掘調査時に近世の溝1条のみであったことから、この面での遺構調査は実施しなかった。地山上面での検出遺構は、溝24条、土坑20基、掘立柱建物2棟を含むピット79基である。出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器、木器、石器などコンテナ10箱分の土器が出土した。

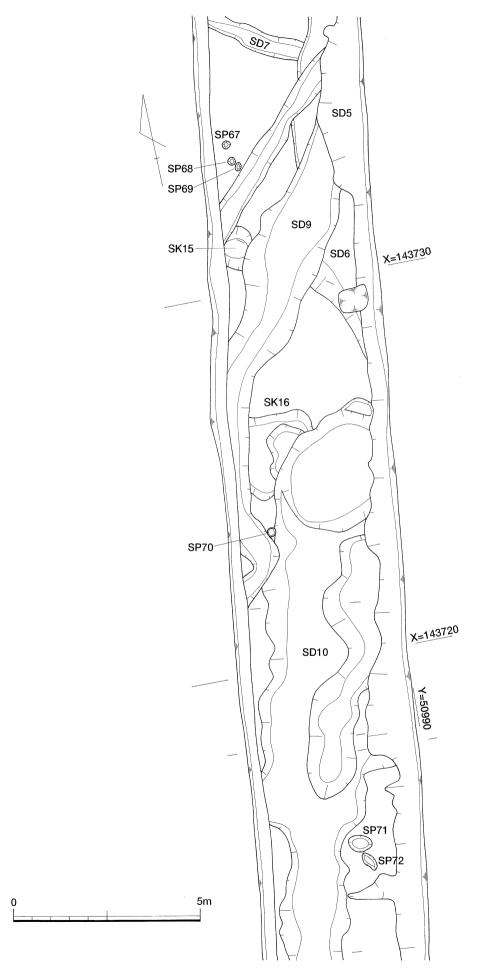


第 4 図 調査区平面図 (S=1/250)

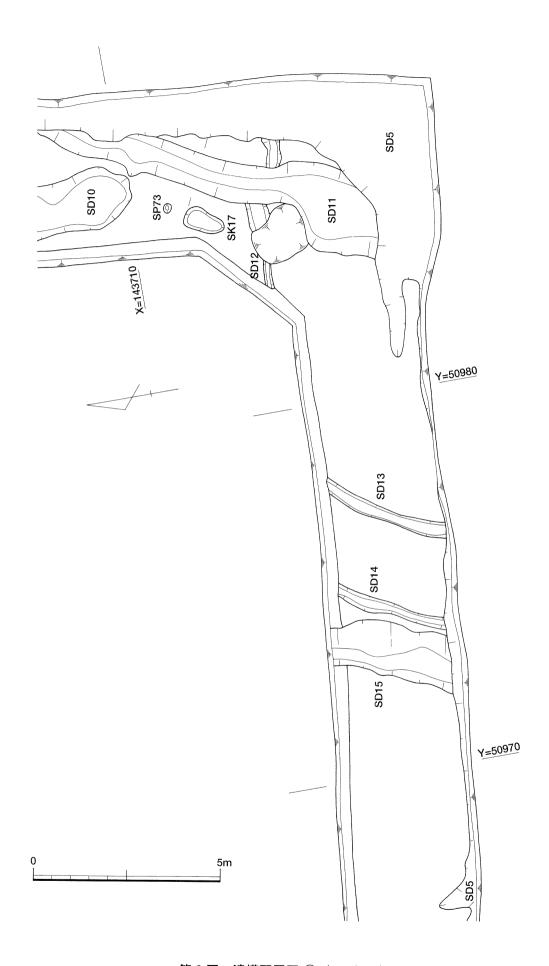


第5図 遺構配置図① (S=1/100)

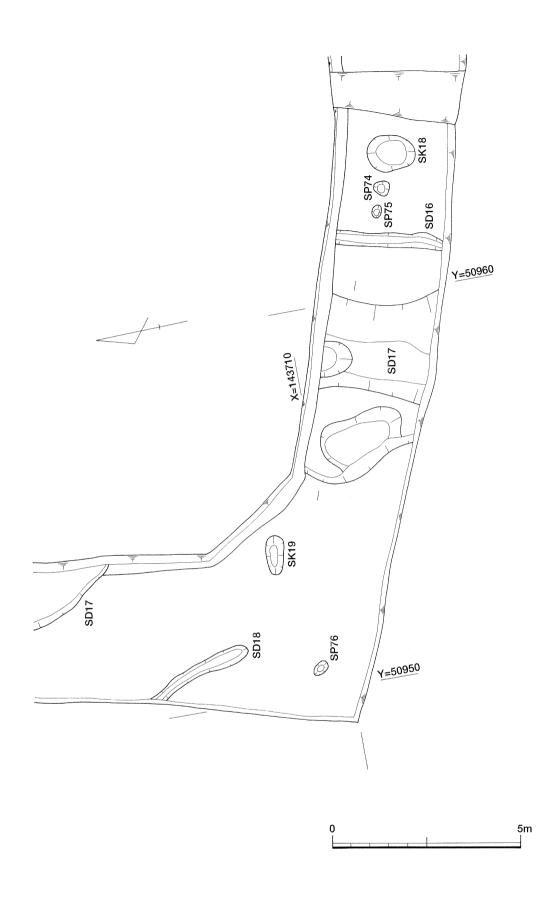




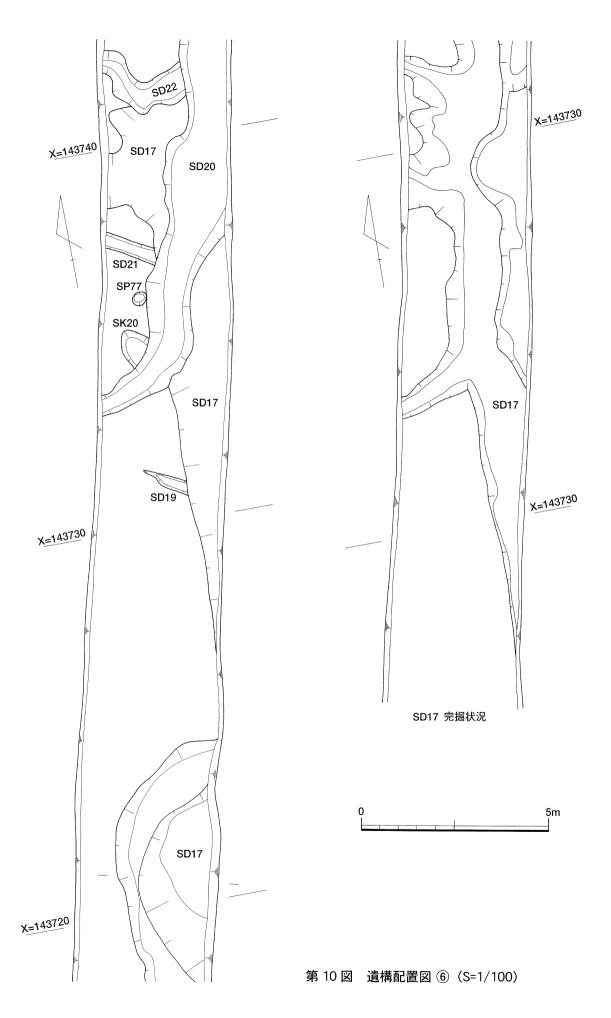
第7図 遺構配置図 ③ (S=1/100)

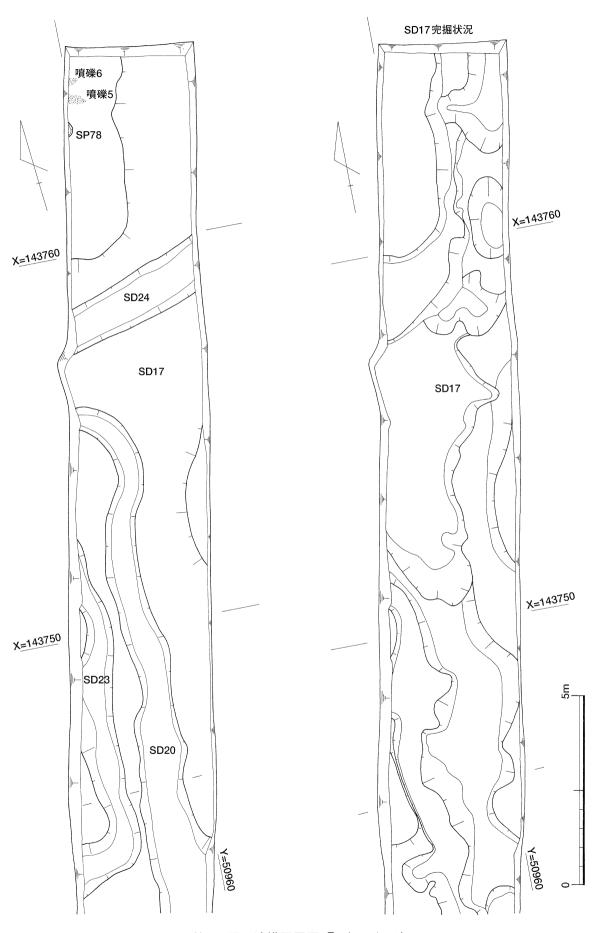


第8図 遺構配置図 ④ (S=1/100)



第9図 遺構配置図⑤ (S=1/100)

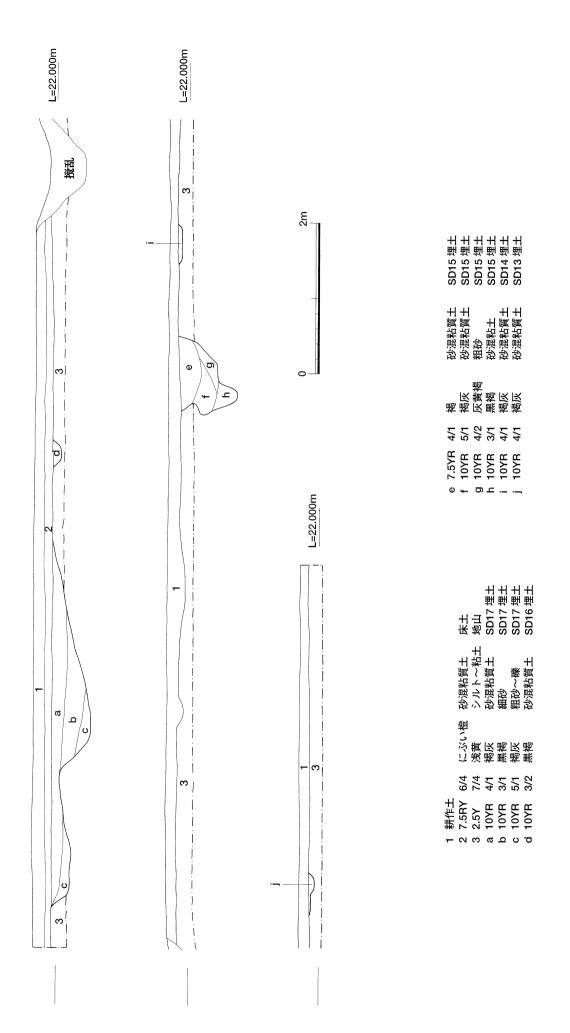


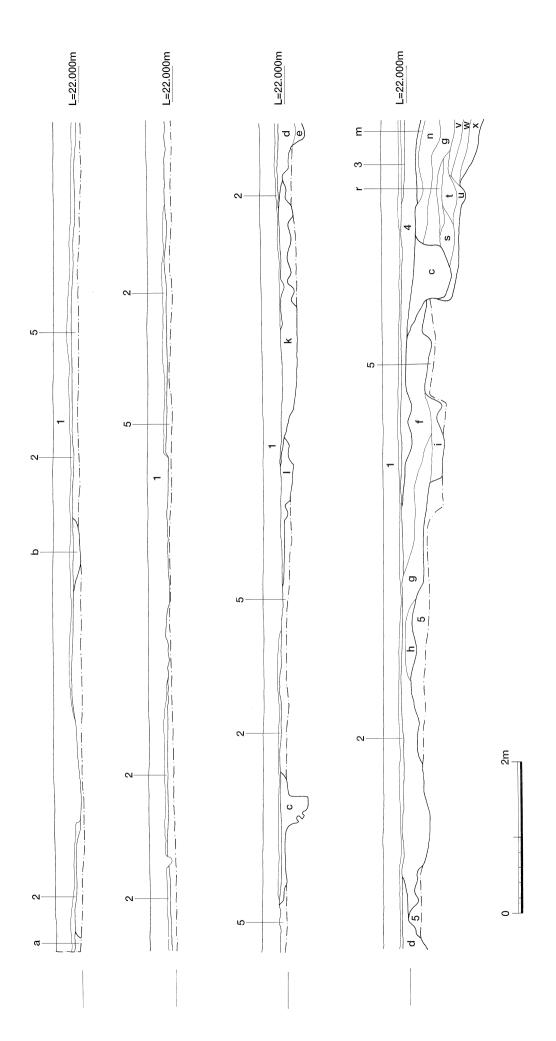


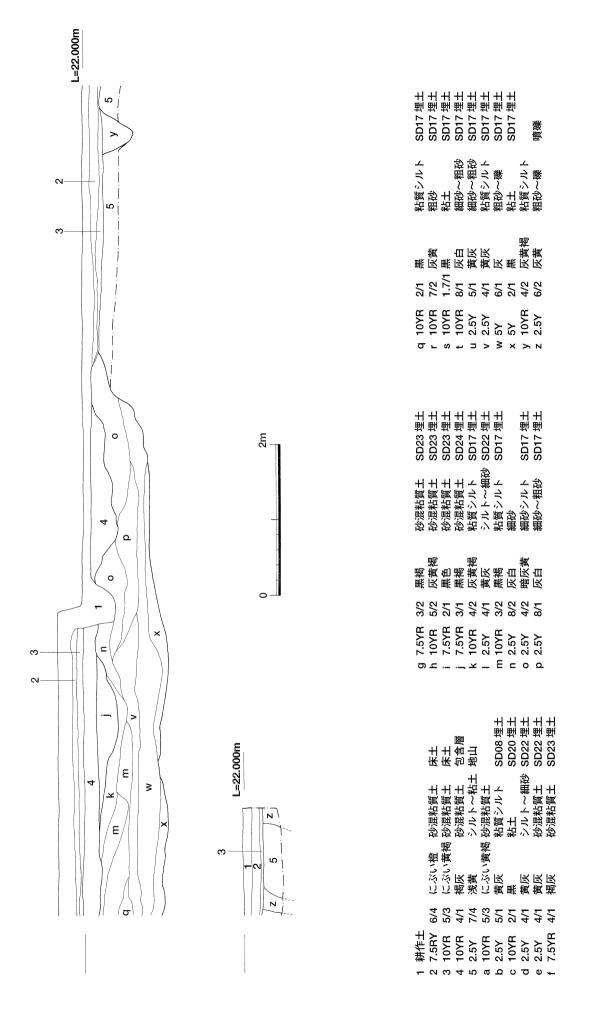
第 11 図 遺構配置図 ⑦ (S=1/100)

第 12 図 調査区東部西壁土層断面図 ①

第 13 図 調査区東部西壁土層断面図 ②



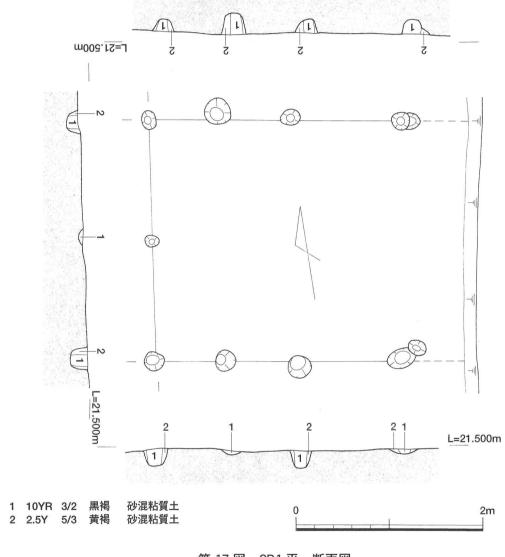




#### 第3節 遺構

#### SB1 (第17図)

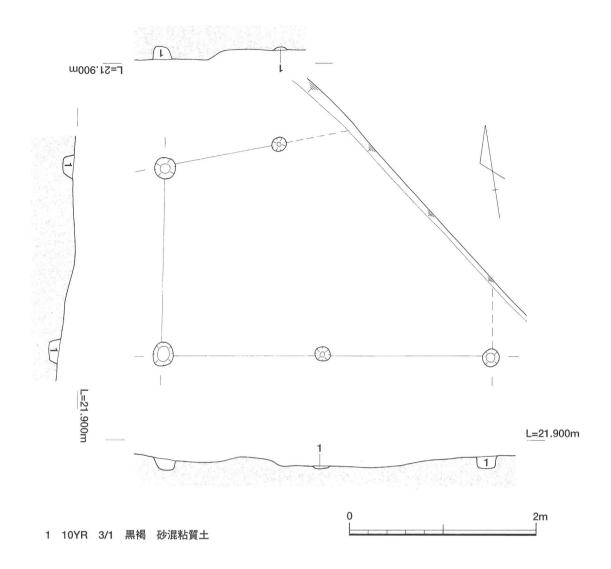
調査区北東端で検出した掘立柱建物である。南北 2 間(2.5m),東西 3 間(2.9m)以上,床面積 7.25  $\mathrm{m}^2$  以上で,建物主軸方位は  $\mathrm{N}-80^\circ$  — W である。掘立柱建物を構成する柱穴は直径  $15\sim30\mathrm{cm}$  の円形ないし楕円形を呈し,直径  $10\sim15\mathrm{cm}$  の柱痕を検出した。いずれの柱穴も,柱痕埋土は黒褐色砂混粘質土で,掘方埋土は黄褐色砂混粘質土である。梁間の柱間は  $1.25\mathrm{m}$  と均等であるのに対し,桁行は  $70\mathrm{cm}\sim1.2\mathrm{m}$  と不均衡である。いずれの柱穴からも遺物は出土しておらず,詳細な時期は不明であるが,概ね条里地割に合致していることから,条里制施行以後の遺構と考えられる。



第 17 図 SB1 平·断面図

#### SB2 (第18図)

調査区西部中央で検出した掘立柱建物である。南北 1 間(2m),東西 2 間(3.5m)以上,床面積  $7m^2$  以上で,建物主軸方位は  $N-80^\circ-W$  である。掘立柱建物を構成する柱穴は直径  $15\sim25$ cm の円形ないし精円形を呈する。いずれの柱穴も,埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。いずれの柱穴からも遺物は出土しておらず,詳細な時期は不明であるが,弥生終末期の遺物をわずかに含む  $SD3\cdot4$  の上面から掘り込んでおり,概ね条里地割に合致していることから,条里制施行以後の遺構と考えられる。



第 18 図 SB2 平·断面図

#### SK1 (第 19 図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は瓢箪形を呈し, 長辺 1.08 m, 短辺 80cm, 深さ 5cm を測る。 埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で,断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず,時期は 不明である。

#### SK2 (第19図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し、長辺 2.2 m、短辺 66cm、深さ 7cm を測る。 埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期 は不明である。

#### SK3 (第19図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径 1.44 m, 短径 1.16m, 深さ 5cm を測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SK4 (第19図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し、長辺 1.26 m以上、短辺 64cm、深さ 11cm を測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SK5 (第19図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態はやや不整形ではあるが円形を呈し,長計 1.7m,短辺 1.6m,深さ 6cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SK6 (第19図)

調査区北東部で検出した土坑である。東半が調査区外に延びるため平面形態は不明であるが, 長辺 lm以上, 短辺 lm, 深さ 6cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で, 断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず, 時期は不明である。

#### SK7 (第19図)

調査区北東部で検出した土坑である。SK5・6 に切られているが、平面形態は楕円形を呈すると考えられ、 長径 1.1m、短径 62cm、深さ 3cm を測る。埋土は暗褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の 堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SK8 (第 20 図)

調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は側溝の掘削によって西辺が不明であるが、やや不整形な長方形を呈すると考えられ、長辺 4.06 m、短辺 1.9cm、深さ 8cm を測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層であるが、全体に焼土を含んでいた。断面形状は浅いレンズ状の堆積である。

遺構の床面直上で、遺物が出土しており、第20図に掲載した。1・2は弥生土器の甕である。外面はマメツのため調整不明であるが、内面は縦方向に板ナデが施されている。3・4は弥生土器の壺の体部である。3は外面ナデ、内面指頭圧のちヨコハケで、外面に櫛原体による列点文が施されている。4は外面ナデのち体部最大径部分のみヨコヘラミガキを施しており、内面指頭圧である。5は弥生土器の壺の頸部である。直立する頸部最下段に押圧突帯を1条巡らせている。外面粗いタテハケ、内面指頭圧である。6は弥生土器の広口壺である。外面粗いタテハケのち体部最大径付近のみヨコヘラミガキ、内面タテハケのち指頭ナデである。S1はサヌカイト製の削器である。剥片の背部を調整しただけのものである。出土遺物から弥生中期中葉の遺構と考えられる。

#### SK9 (第21図)

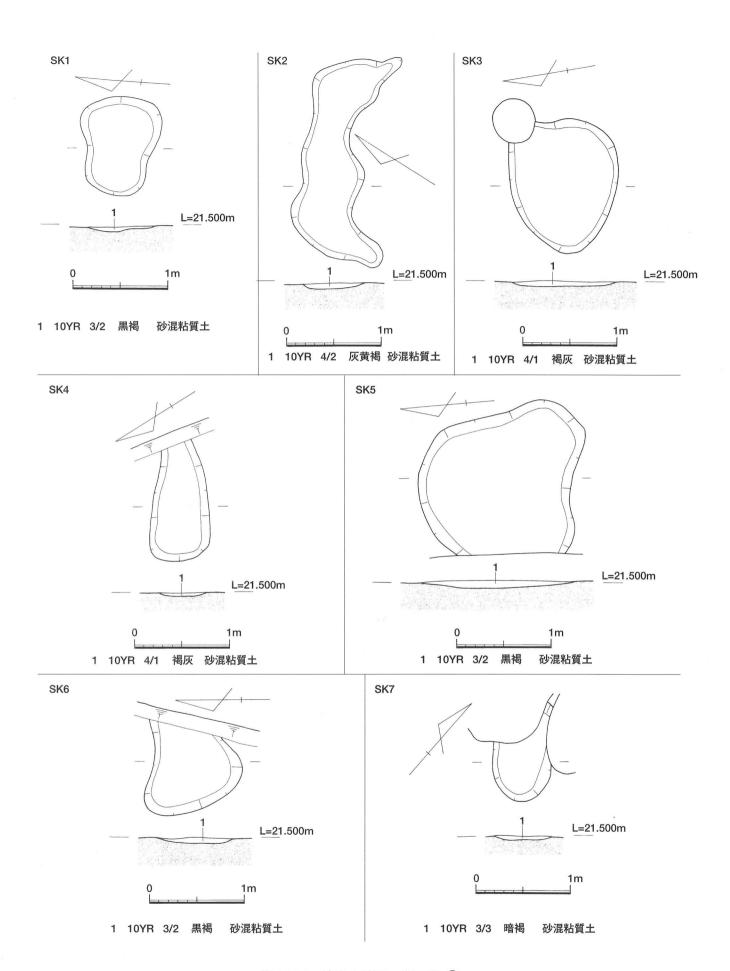
調査区北東部で検出した土坑である。東辺が調査区外に延びるが、平面形態は方形を呈すると考えられ、 長辺 1.54m 以上、短辺 1.52m、深さ 3cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレン ズ状の堆積である。土坑の床面において SP34・35・36 の 3 基のピットを検出した。遺物は出土しておらず、 時期は不明である。

#### SK10 (第21図)

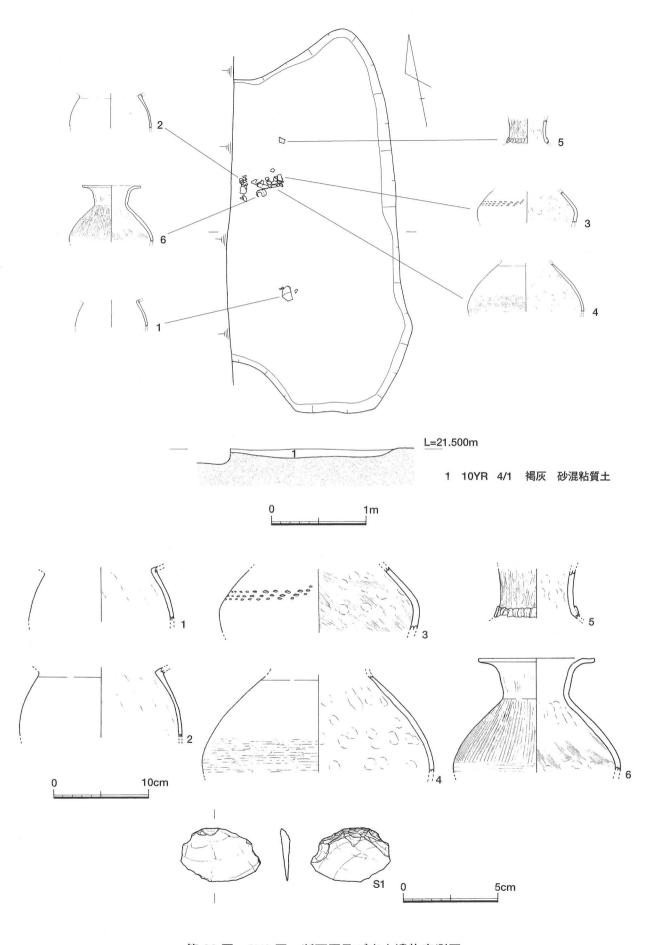
調査区北東部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し, 長径 2.26 m, 短径 1.5m, 深さ 8cm を測る。 埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で,断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず,時期は 不明である。

#### SK11 (第 21 図)

調査区北東部で検出した土坑である。東半が調査区外に延びるため平面形態は不明であるが,長辺 2.36 m以上,短辺 94cm 以上,深さ 3cm を測る。埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層で,断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず,時期は不明である。



第 19 図 検出土坑平·断面図 ①



第 20 図 SK8 平・断面図及び出土遺物実測図

#### SK12 (第21 図)

調査区北東部で検出した土坑である。東辺が調査区外に延びるが、平面形態は隅丸方形を呈すると考えられ、長辺 1.8 m、短辺 1.6m 以上、深さ 11cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SK13 (第21図)

調査区北東部で検出した土坑である。東半が調査区外に延びるが、平面形態は楕円形を呈すると考えられ、 長辺 90cm 以上、短辺 80cm、深さ 10cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅い逆台 形を呈する。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SK14 (第21図)

調査区東部中央で検出した土坑である。平面形態は円形を呈し, 長径 64cm, 短径 60cm, 深さ 2cm を測る。 埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で,断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず,時期は 不明である。

#### SK15 (第21図)

調査区東部中央で検出した土坑である。 $SD8 \cdot 9$  に切られており,平面形態は不明であるが,長辺 1.12m,短辺 60cm 以上,深さ 15cm を測る。埋土は褐灰色シルトの単層で,断面形状はレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず,時期は不明である。

#### SK16 (第22図)

調査区東部中央で検出した土坑である。SD9・10 に切られており, 平面形態は不明であるが, 長辺 2.62 m, 短辺 1.4m 以上, 深さ 5cm を測る。埋土は暗灰黄色砂混粘質土の単層で, 断面形状はレンズ状の堆積であるが, 東半がやや深くなっている。

出土遺物は第22図7の弥生土器の甕1点だけである。外面タテハケ、内面指頭圧である。古墳時代の溝SD9・10に切られており、弥生終末期の遺構と考えられる。

#### SK17 (第23図)

調査区南東部で検出した土坑である。平面形態は長方形を呈し, 長辺 1.1 m, 短辺 62cm, 深さ 2cm を測る。 埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で,断面形状は浅いレンズ状の堆積である。遺物は出土しておらず,時期は 不明である。

#### SK18 (第23図)

調査区南部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径 1.28 m、短径 92cm、深さ 29cm を測る。埋土は灰白色砂混粘質土の単層で、断面形状は U 字である。遺物は出土しておらず、時期は不明であるが、近世の溝である SD5 の埋土と似ることから、近世以降の遺構の可能性が考えられる。

#### SK19 (第 23 図)

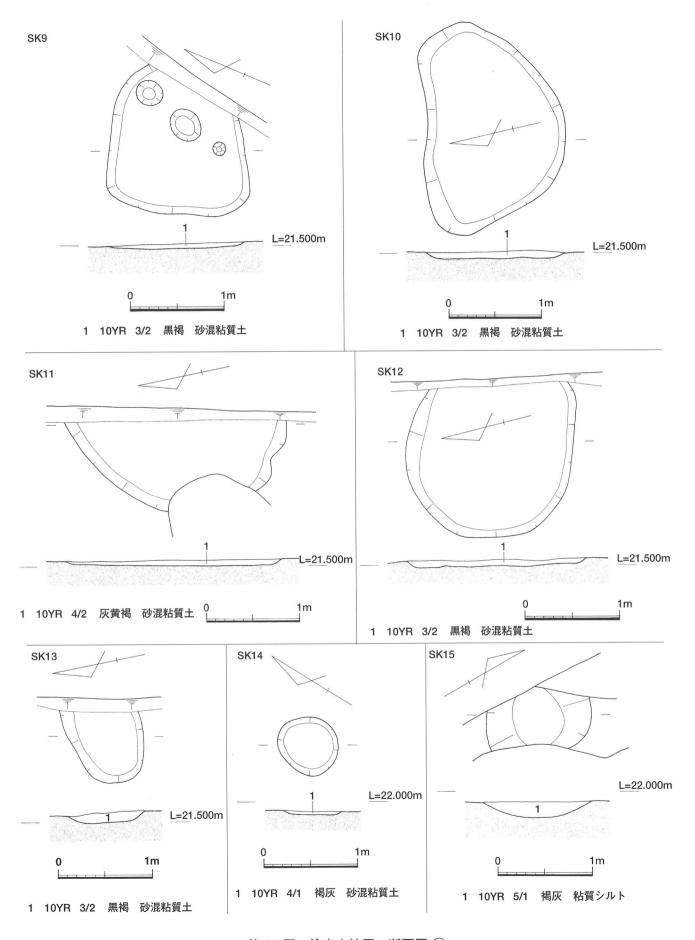
調査区南西部で検出した土坑である。平面形態は長方形を呈し、長辺 1.02 m, 短辺 48cm, 深さ 18cm を測る。埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層で、断面形状は U 字である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SK20 (第23図)

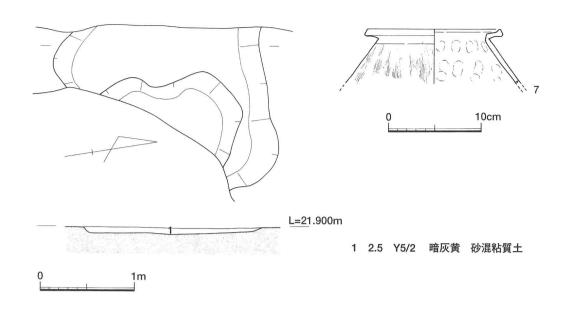
調査区西部中央で検出した土坑である。SD17 に切られており,平面形態は不明であるが,長辺 90cm 以上, 短辺 88cm,深さ 5cm を測る。埋土は黄灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅いレンズ状の堆積である。 遺物は出土しておらず、時期は不明である。

#### SP1 (第24図)

調査区北東端で検出したピットである。東半が調査区外に延びるため、平面形態は不明であるが、長辺70cm、短辺30cm以上、深さ22cmを測る。埋土は黄灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は逆台形である。



第21図 検出土坑平・断面図②



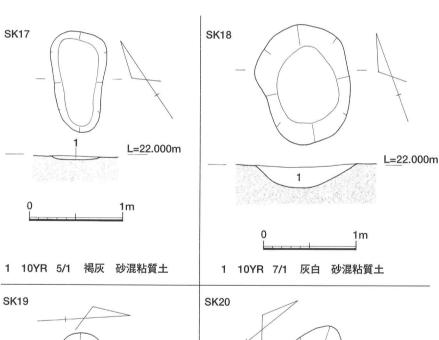
第22図 SK16 平・断面図及び出土遺物実測図

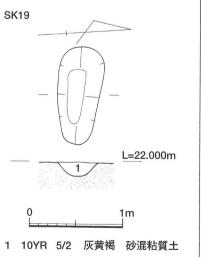
出土遺物は第24図に掲載した。8は弥生土器の甕である。外面ナデのち下半のみへラミガキ,内面指頭圧のちヨコハケである。体部外面には波状の列点を2列巡らせている。9は弥生土器の甕の口縁部である。内外外重と出る。外面タテへラ底部である。外面タテへラ底部である。外面タテへラ底が大が幅広いまがよいにある。S2はサヌカイト弥生中期の遺構と考えられる。

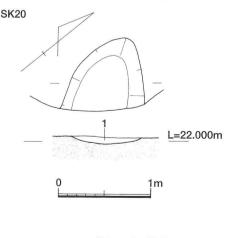
#### SP15 (第25図)

調査区北東部で検出したピットである。平面形態は円形を呈し、 長径 52cm、短径 50cm、深さ 29cm を測る。埋土は黄灰色砂 混粘質土の単層で、断面形状は 逆台形である。

出土遺物は第25図に掲載した。 11は弥生土器の底部で、外面タ テヘラミガキ、内面指頭圧のち タテヘラケズリである。12も弥 生土器の底部で、外面タテヘラ ミガキ、内面指頭圧である。出 土遺物から弥生中期の遺構と考 えられる。

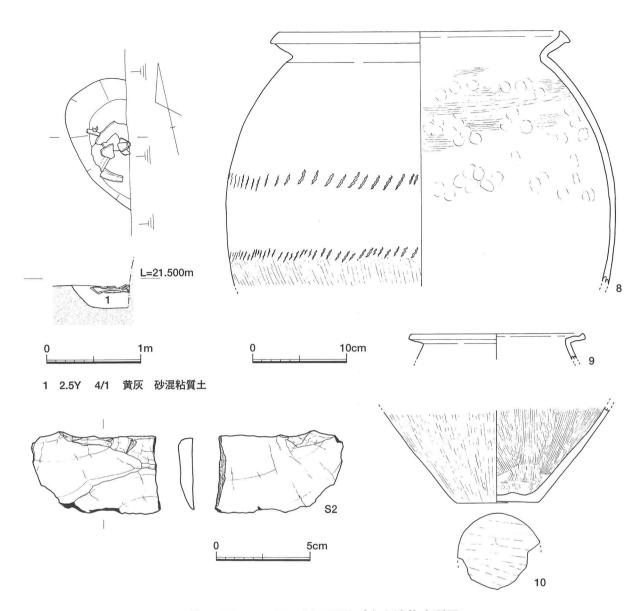




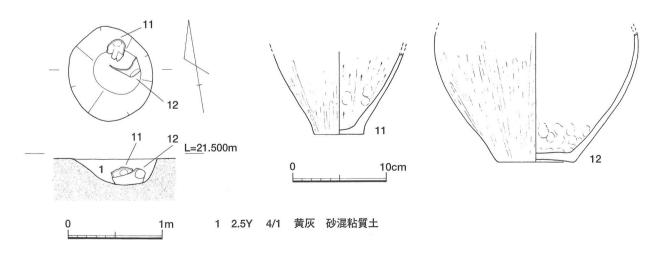


1 2.5Y 5/1 黄灰 砂混粘質土

第23図 検出土坑平・断面図③



第24図 SP1平・断面図及び出土遺物実測図



第 25 図 SP15 平・断面図及び出土遺物実測図

#### SD1 (第 26 図)

調査区東部中央で検出した溝である。幅 1.98m, 検出長 4.8m, 深さ 10cm を測る。 埋土は黒色粘土の単層で, 断面形状は逆台 形である。

出土遺物は第26図13の弥生土器広口壺の頸部だけである。外面タテハケ、内面指頭圧で、内面に接合痕が残る。弥生終末期の遺物である。

#### SD2 (第27図)

調査区東部中央で検出した溝である。幅 1.2m, 検出長 3.38m, 深さ 50cm を測る。埋土は 7層に分層でき, 断面形状は U字である。第 1層は灰黄褐色砂混粘質土で, 上層とした。第 2層は灰黄褐色粗砂, 第 3層は黄灰色粗砂, 第 4・第 5層は褐灰色砂混粘質土, 第 6層は黄灰色粗砂となっており, 概ね砂層が続くことから中層とした。第 7層は黒褐色砂混粘質土で,下層とした。第 7層は黒褐色砂混粘質土で,下層とした。遺物は主に下層から出土しており, 第 27図に掲載した。14は弥生土器の底部である。15は弥生土器の高杯の脚部である。外面ナデ, 内面ヨコヘラケズリである。いずれも弥生終末期の遺物である。

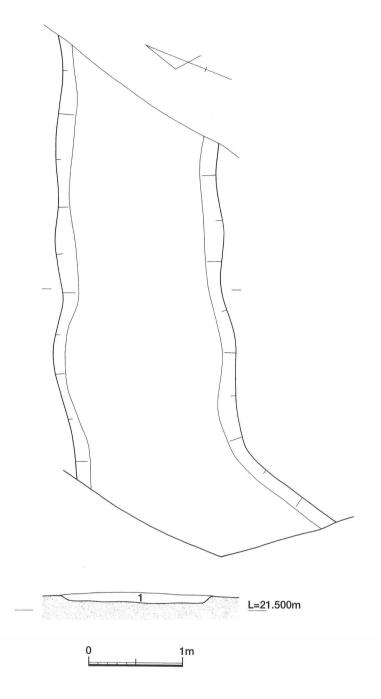
#### SD3·4 (第28図)

調査区東部中央で検出した溝で,2本の溝が合流している。SD3 は幅2.2m,深さ23cm,SD4は幅1.12m,深さ14cmを測る。SD3の埋土は2層に分層でき,上層は褐灰色砂混粘質土,下層は黒色粘質土で,下層はSD4の埋土と同じである。SD3からわずかに弥生土器の小片が出土している。

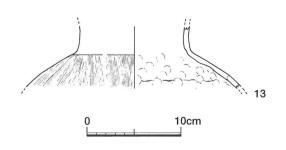
#### SD5 (第6~8·29 図)

調査区の東部と南部で検出した溝である。 東肩は調査区外であり、規模は不明である。埋土はにぶい黄橙色砂混粘質土で、深 さ35cmを測る。出土遺物は図示しなかっ たが、肥前系磁器の端反碗があり、19世 紀以降の溝と考えられる。

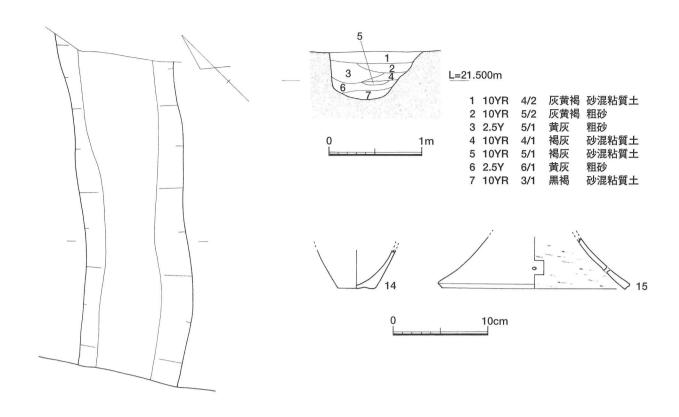
SD5 は条里地割に合致しており、香川郡の1条と2条の条界にあたる。平成7年度の調査地(松林遺跡(通学路))においても、SD5 の延長部分においてSD102を検出している。SD102は9~14世紀の溝と考えられ、SD5とは時期的な隔たりがある。SD5の東側には現在の水路が所在し、平成7年度調査地の南側において東へ屈曲し



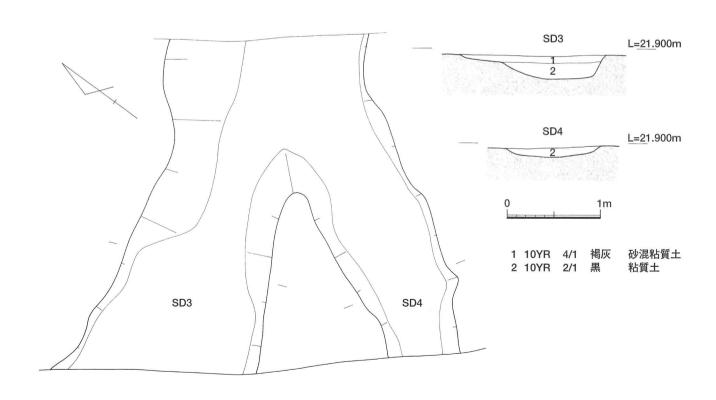
1 10YR 2/1 黒 質土



第26図 SD1平・断面図及び出土遺物実測図



第 27 図 SD2 平・断面図及び出土遺物実測図



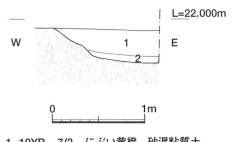
第 28 図 SD3·SD4 平·断面図

ている。この水路に平行して 18 世紀の遺物を含んだ SD105 を検出していることから, SD5 は SD105 につながるものと考えられる。

## SD6 (第7·30 図)

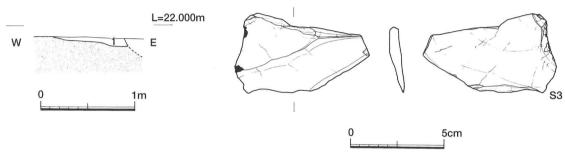
調査区東部中央で検出した溝である。SD5・8・9 に切られており、規模は不明である。埋土は黄灰色砂混粘質土の単層で、深さ 10cm を測る。

出土遺物は第30図S3のサヌカイトの剥片1点だけである。 古墳時代の溝SD9に切られており、古墳時代以前の溝と考えられる。



1 10YR 7/2 にぶい黄橙 砂混粘質土 2 10YR 6/3 にぶい黄橙 砂混粘質土

第 29 図 SD5 断面図



第30図 SD6 断面図及び出土遺物実測図

## SD7 (第31図)

調査区東部中央で検出した溝である。SD6 に切られており、幅 60cm、検出長 2.54m、深さ 10cm を測る。埋土は黄灰色粘質シルトの単層で、断面形状は浅い U 字である。出土遺物は無いが、SD6 に切られており、古墳時代以前の溝と考えられる。

## SD8 (第32図)

調査区東部中央で検出した溝である。幅 66cm, 検出長 5.2 m, 深さ 10cm を測る。埋土は黒色粘質土の単層で、断面形状は浅い U 字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

#### SD9 (第7·33 図)

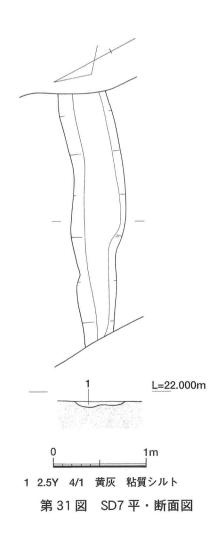
調査区東部中央で検出した溝である。幅2m, 検出長13m,深さ16cmを測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で, 断面形状は浅いU字である。

出土遺物は第33図に掲載した。16は須恵器の甕である。 外面平行タタキのちカキ目,内面同心円のあて具痕が見られる。17は弥生土器の底部で,底面に線刻が施されている。 須恵器甕から7世紀頃の遺構と考えられる。

## SD10 (第7·8·34 図)

調査区南東部で検出した溝である。幅 3.6m,検出長17.44 m,深さ 42cm を測る。埋土は 2 層に分層でき,上層は褐色の粘土ブロックを含む黒褐色砂混粘質土,下層は黄灰色粘質シルトである。断面形状は浅い U 字である。

出土遺物は第34図に掲載した。18~24は弥生土器であ



- 32 -

る。18 は高杯で、外面ヨコヘラケズリである。19・20 は甕である。20 の外面はタタキ、内面はタテヘラケズリである。21 ~ 24 は底部である。24 の外面はタテヘラミガキ、内面タテヘラケズリである。25 は土師器の甕である。26 は須恵器の蓋である。外面の回転ヘラケズリの範囲はわずかである。27 は須恵器の坏である。28 は須恵器の高杯脚柱部で、沈線を 1 条めぐらせている。弥生終末期の遺物を多く含むが、須恵器から 7世紀中葉の遺構と考えられる。

# SD11 (第8・35図)

調査区南東部で検出した溝である。幅 2.4m, 検出長 9.64m, 深さ 17cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土で、断面形状は浅い U 字である。

出土遺物は第35図29の弥生土器の広口壺の口縁1点だけである。 内面に突帯1条を巡らせている。弥生中期の遺物である。

## SD12 (第36図)

調査区南東部で検出した溝で、SD11 に切られている。幅 56cm、検出長 4 m、深さ 17cm を測る。埋土は褐灰色粘質シルトの単層で、断面形状は浅い U 字である。出土遺物は弥生土器の小片とサヌカイトの剥片 1 点があるが、時期は不明である。

## SD13 (第36図)

調査区南部で検出した溝である。幅 42cm, 検出長 3.5m, 深さ 4cm を測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で, 断面形状は浅い U字である。出土遺物は無く, 時期は不明である。

#### SD14 (第36図)

調査区南部で検出した溝である。幅 40cm, 検出長 3m, 深さ 5cm を測る。埋土は褐灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅い U 字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

#### SD15 (第37図)

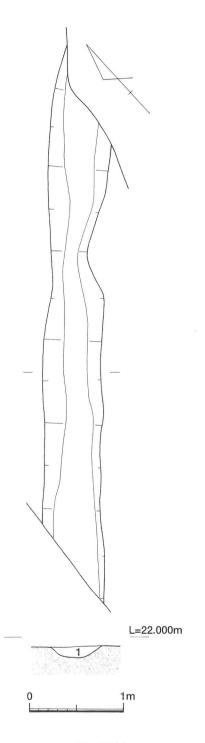
調査区南部で検出した溝である。幅 1.46m, 検出長 3.2m, 深さ70cm を測る。埋土は4層に分層でき,第1層は褐灰色砂混粘質土,第2層は灰黄褐色粗砂,第3層は褐灰色粗砂,第4層は黒褐色砂混粘質土である。断面形状はU字を呈するが,西肩の落ち込みは急である。上層と下層に砂混粘質土,中層に粗砂層が見られることと,溝の方位からSD2につながる可能性が高い。弥生土器の小片が数点出土しただけで,時期は不明である。

## SD16 (第37図)

調査区南部で検出した溝である。幅 42cm, 検出長 2.84m, 深さ 10cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質土の単層で, 断面形状は浅い U 字である。出土遺物は無く, 時期は不明である。

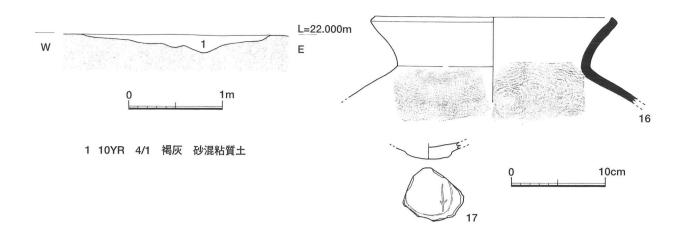
## SD17 (第 38 ~ 52 図)

調査区西部で検出した溝である。幅 4.9m, 検出長 58m, 深さ 80cm を測る。断面図は 3 箇所で作成しており, 上・中・下の 3 層に 大別できる。上層は褐灰色~灰黄褐色の砂混粘質土である。中層は灰白~黄灰色のシルト~砂層で, 一部黒色粘土層が見られる。下層は褐

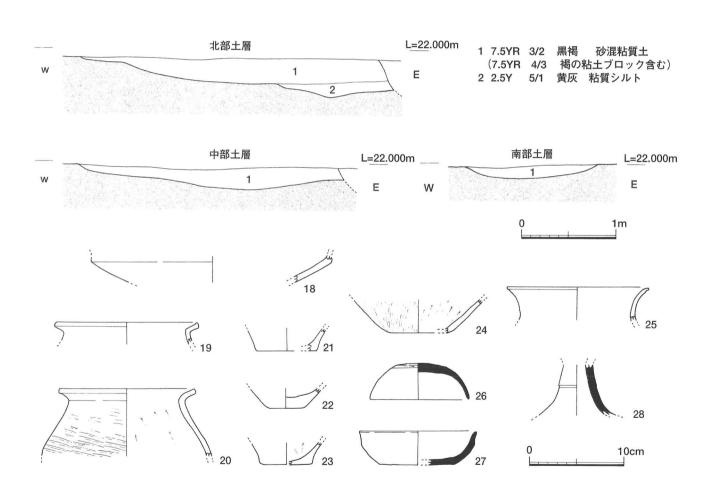


1 2.5Y 2/1 黒 粘質土

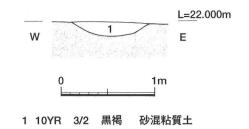
第32図 SD8平·断面図

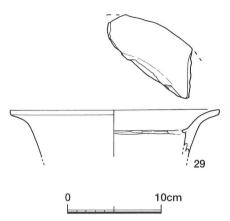


第33図 SD9 平・断面図及び出土遺物実測図

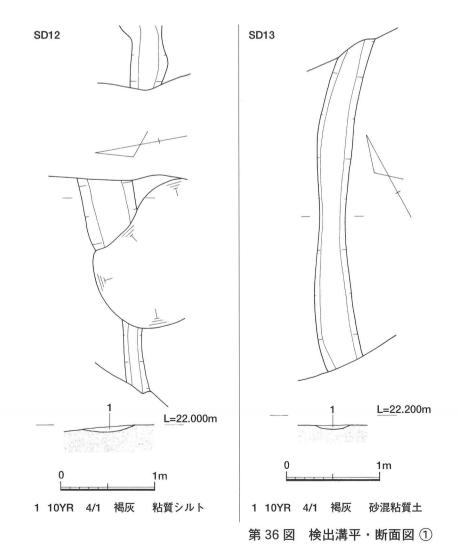


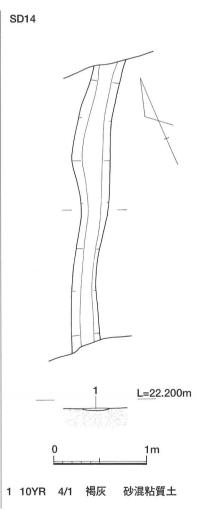
第34図 SD10 断面図及び出土遺物実測図

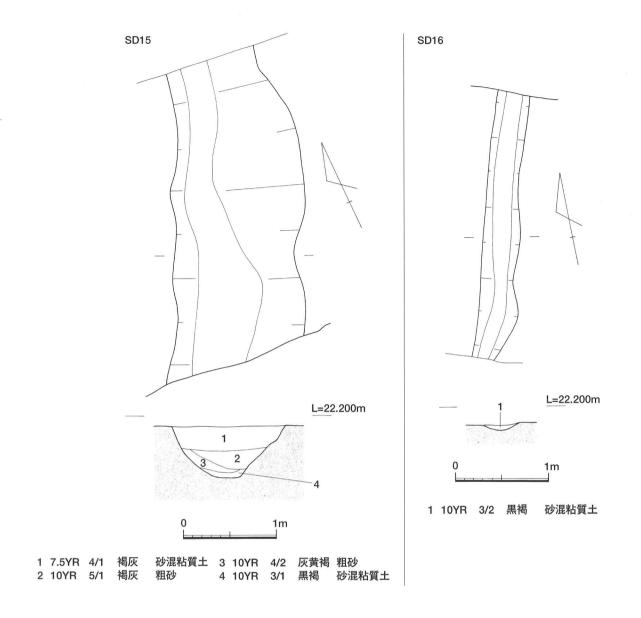




第35図 SD11 断面図及び出土遺物実測図







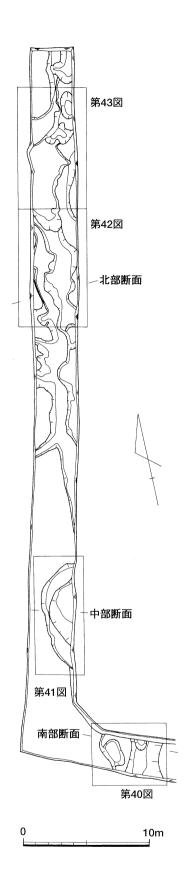
第37図 検出溝平·断面図②

灰〜黄灰色の粗砂〜礫層である。溝の規模・方位から多肥松林遺跡(県道) I 区 SD03 から流れ込み、松林遺跡(通学路) SD201 に続くものと考えられる。

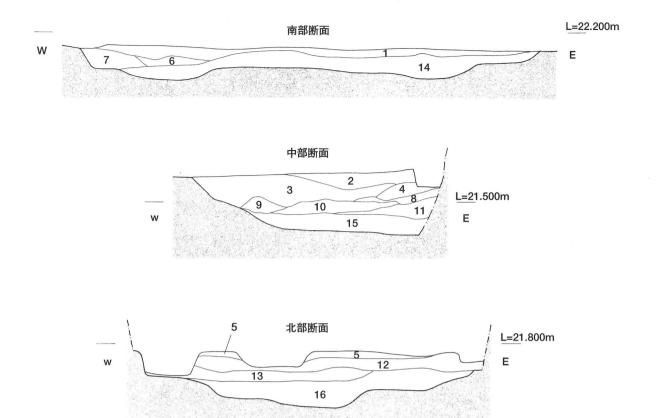
出土遺物は第44~52 図に掲載した。第44・45 図は上層出土遺物である。30~63 は弥生土器である。30・31 は弥生中期の甕で、口縁端部をやや拡張させ、凹線2条が施されている。30 は口縁端部に刻目と頸部に押圧突帯が施されている。32~35 は弥生終末期の甕の口縁部である。外面タテハケ、内面指頭圧である。36 は弥生終末期の甕の体部上半で、外面タテハケ、内面指頭圧である。体部には焼成後の穿孔が見られる。37 も弥生終末期の甕の体部上半である。外面タテハケのち指頭圧、内面タテヘラケズリのち指頭圧で、頸部の一部にヨコハケが見られる。38 は弥生終末期の細頸壺の頸部である。外面タテハケ、内面指頭圧である。39 は弥生終末期の複合口縁壺である。40~42 は弥生終末期の広口壺である。43~50 は弥生終末期の高杯で、脚部内面はヨコヘラケズリである。51 は弥生中期の鉢で、口縁部に凹線2条を巡らせている。52 は弥生終末期の製塩土器である。53 は弥生終末期の小型丸底土器である。54 は弥生終末期の鉢である。55~63 は底部である。56・57 には焼成前の穿孔が見られる。64~66 は土師器である。64・65 は古墳時代後期の高杯脚部で、内面ヨコヘラケズリである。64 の脚柱部には焼成後の穿孔が見られる。66 は古墳時代後期の杯である。67~69 は須恵器である。67 は古墳時代後期の壺で、外面平行タタキのちカキ目である。68・69 はそれぞれ古墳時代後期の蓋と坏である。サヌカイト製の石器も見られ、S4 は石鏃、S5 は石錐である。

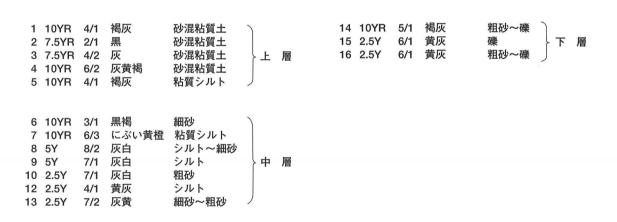
第46・47 図は中層出土遺物である。70~121 は弥生土器である。 70~78 は弥生終末期の甕である。79 は弥生中期の広口壺である。 80~82 は弥生終末期の広口壺である。83 は弥生終末期の長頸壺で ある。外面タテハケ、内面指頭圧である。84~87は弥生終末期の 広口壺で、内面指頭圧である。88 は弥生終末期の複合口縁壺である。 89~96 は弥生終末期の高杯である。89・90 は脚部で、外面タテへ ラミガキ,内面ヨコヘラケズリである。89は円形スカシが3方向2 段に見られ、そのうち、下段の1箇所は2個1対となっている。92 ~96 は坏部である。92 が比較的残りがよく、外面ヨコヘラケズリの ち分割ヘラミガキ、内面分割ヘラミガキである。97・98 は弥生終末 期の高杯または大型鉢である。外面はヨコヘラケズリである。99 は弥 生終末期の鉢である。100は弥生終末期の小型丸底土器である。101 ~ 121 は底部である。102 ~ 107 のように内面タテヘラケズリを施 すものが多いが、111~113のように板ナデのものも見られる。122 ~ 125 は土師器である。122 は古墳時代前半の甕である。123・124 は古墳時代後期の甕である。125 は古墳時代前期の高杯である。外面 縦方向の板ナデ、内面ヨコヘラケズリのち裾部のみヨコハケである。 126・127 は古墳時代後期の須恵器の蓋と坏である。石器では S6 の サヌカイト製石鍬が出土している。

第48~52図は下層出土遺物である。128~213は弥生土器であ る。128~130は弥生中期の甕である。128・129は口縁部を拡張さ せ、端部に凹線 2 条を施したものである。131 ~ 149 は弥生終末期の 甕である。内面上半指頭圧のものが多い。147 は山陰系の甕で、内面 ヨコヘラケズリである。148 は胎土に 5mm 程度の大粒の結晶片岩が 含まれており、阿波(吉野川上流域)の甕である。149は外面タタキ のち下半のみナデ、内面タテヘラケズリのち指頭圧で、上半部には接 合痕が多く残る。150~154は弥生中期の広口壺である。150は口縁 部外面に凹線2条を施している。151は頸部で、外面に突帯2条を巡 らせている。152は口縁部に凹線4条巡らしたのち円形浮文を貼り付 けている。また、口縁部内面には波状文が施されている。153も口縁 部に凹線4条を施したのち棒状浮文を貼り付けている。154は口縁部 に指頭圧状の圧痕が見られる。円形浮文が剥がれ落ちた可能性が考え られる。155~162は弥生終末期の広口壺である。口縁部を水平気味 に開き、頸部は垂直または内傾する。163 は弥生終末期の細頸壺であ る。外面タテハケ、内面ヨコハケのち指頭圧である。164~166は弥 生中期の高杯である。口縁部外面に凹線2条を巡らせている。164は 口縁部を拡張させ、上面にも凹線2条を施している。167~184は弥 生終末期の高杯である。167は口縁部が外方へ屈曲している。168は 口縁部が長い。169~175は口縁部内面に凹線状の窪みが見られるも ので、外面ヨコヘラケズリである。 176 は  $169 \sim 175$  の坏部分であり、 外面ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ、内面分割ヘラミガキである。 脚部内面はヨコヘラケズリである。177 は脚柱部で,内面指頭圧であ る。179 は坏部から大きく開く脚部をもつものである。179・180 は 脚柱部がほぼ垂直で、裾部が外方へ開くもので、180の裾部には円形 スカシが4方向に施されている。181~184は裾部である。いずれも 内面ヨコヘラケズリで、円形スカシが施されている。185・186 は弥 生終末期の鉢である。185は外面タタキである。186は口縁部が外方 へ開くもので、内面ヨコヘラケズリのちナデである。187~188 は弥 生終末期の小型丸底土器である。190・191 は弥生終末期の大型鉢で、 外面ヨコヘラケズリである。192~213は底部である。192~194



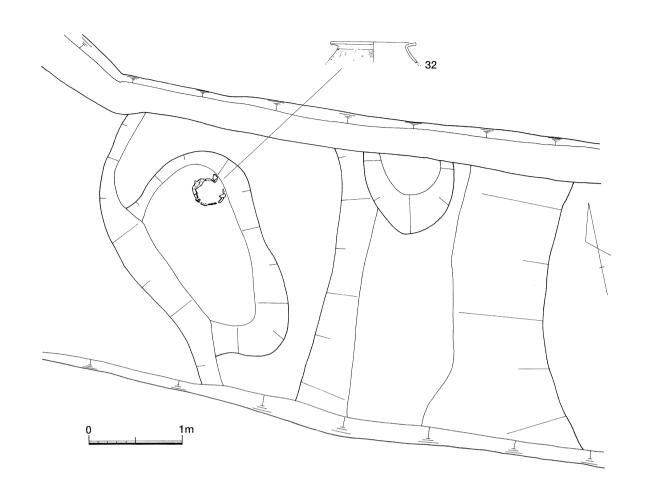
第 38 図 SD17 平面図





1m

第 39 図 SD17 断面図



第 40 図 SD17 土器出土状況図 ①

は外面タテへラミガキ、内面タテへラケズリである。 $195\sim198$ は内面がタテへラケズリのもので、 $199\sim206$ は内面が指頭圧のものである。213は丸底であり、内面はタテへラケズリである。 $214\sim223$ は土師器である。214は古墳時代後期の土師器の甕である。 $215\sim218$ は古墳時代後期の坏である。218は接合痕を多く残し、外面指頭圧、内面板ナデで非常に粗いつくりである。 $219\sim223$ は古墳時代前期の高杯である。ややふくらみを持った脚柱部から水平気味に外へ広がる裾部を持ち、内面はヨコヘラケズリである。 $224\cdot225$ は古墳時代後期の須恵器の蓋である。226は時期不明の土製品である。上方に短い突起と左右に長い突起をもつ。突起の整形はケズリで行われている。226は時期不明の土製品である。226は時期である。226は時期である。226は時期である。226は時期である。226は時期である。226は時期である。226は年基式の石鏃である。226は一様である。226は一

#### SD18 (第53図)

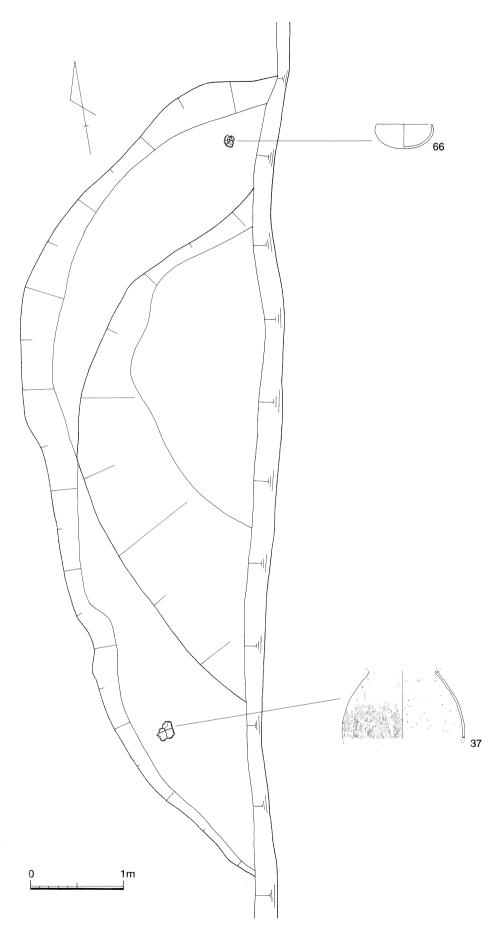
調査区南西部で検出した溝である。幅 46cm,検出長 2.8m,深さ 4cm を測る。埋土は黄灰色粘質シルトの単層で,断面形状は浅い U 字である。出土遺物は無く,時期は不明である。

## SD19 (第53図)

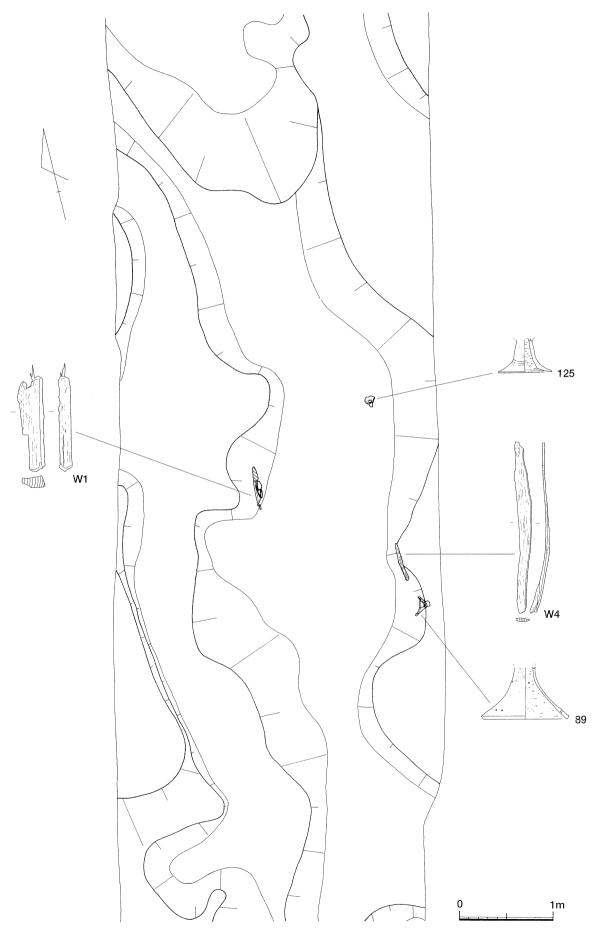
調査区西部で SD17 に切られた状態で検出した溝である。幅 36cm, 検出長 1.24m, 深さ 4cm を測る。埋土は黄灰色砂混粘質土の単層で、断面形状は浅い U 字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

## SD20 (第10·11·54図)

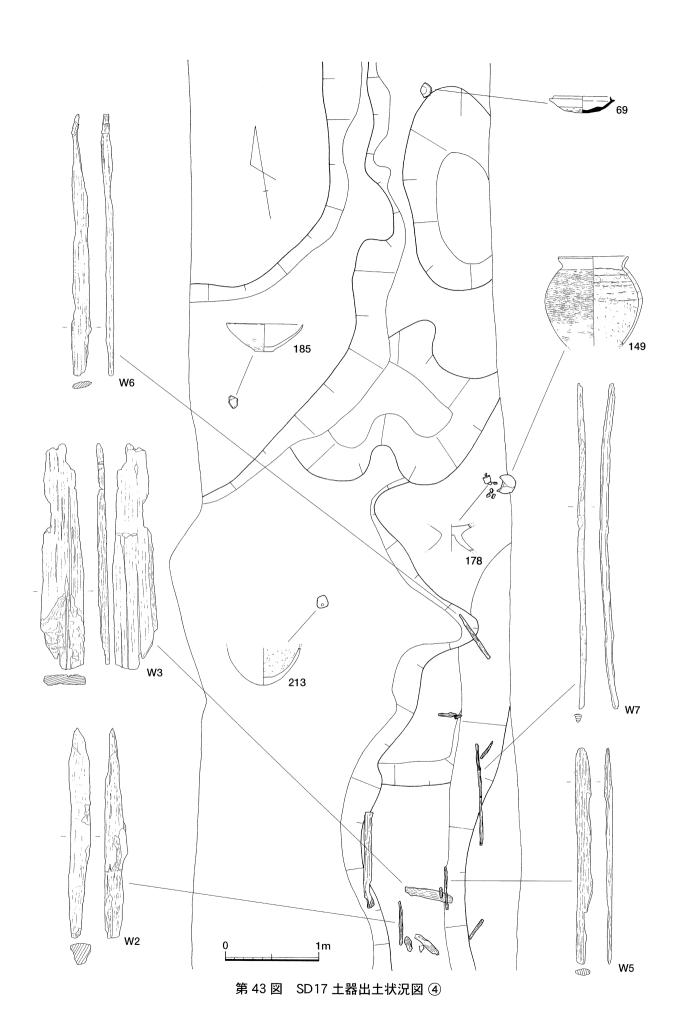
調査区西部で検出した溝である。幅 1.6m,検出長 27.4m,深さ 25cm を測る。埋土は黒色粘土の単層で, 断面形状は逆台形である。



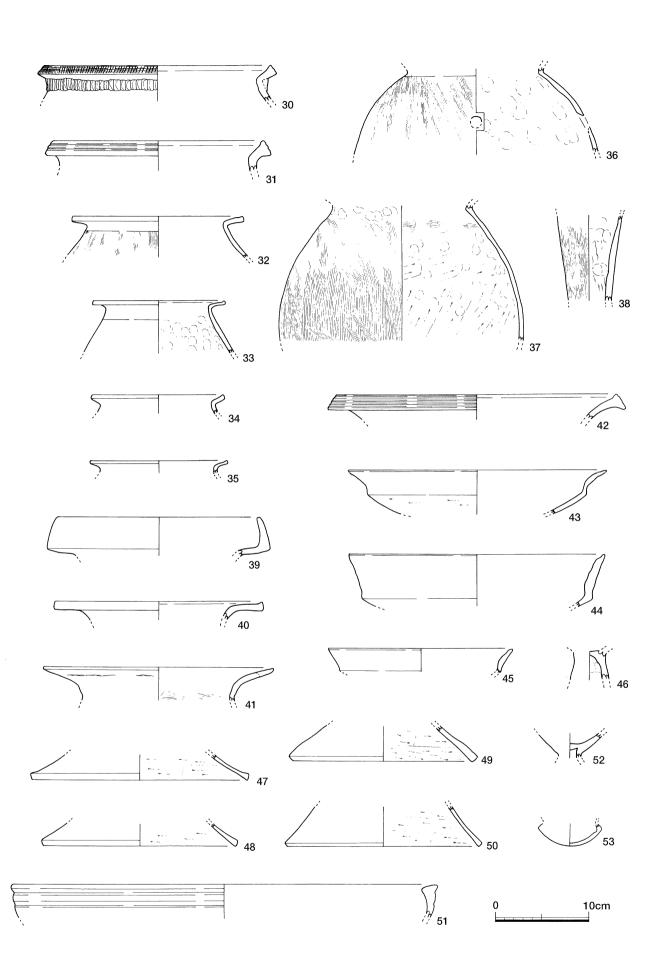
第 41 図 SD17 土器出土状況図 ②



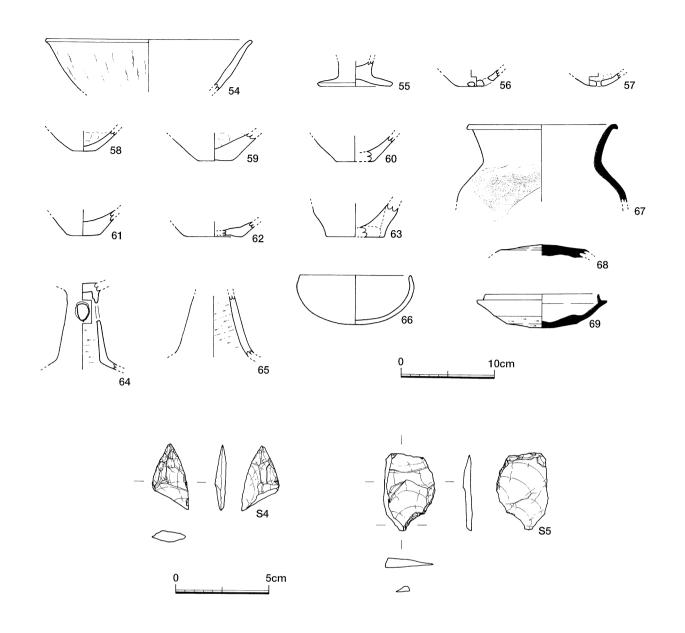
第 42 図 SD17 土器出土状況図 ③



- 42 -



第 44 図 SD17 上層出土遺物実測図 ①



第 45 図 SD17 上層出土遺物実測図 ②

出土遺物は第54図に掲載した。227は土師器の高杯脚部,228は弥生土器の底部で,いずれも混入品と考えられる。229は須恵器の蓋である。SD17を切っており,須恵器の蓋が出土していることから7世紀前半の遺構と考えられる。

## SD21 (第53図)

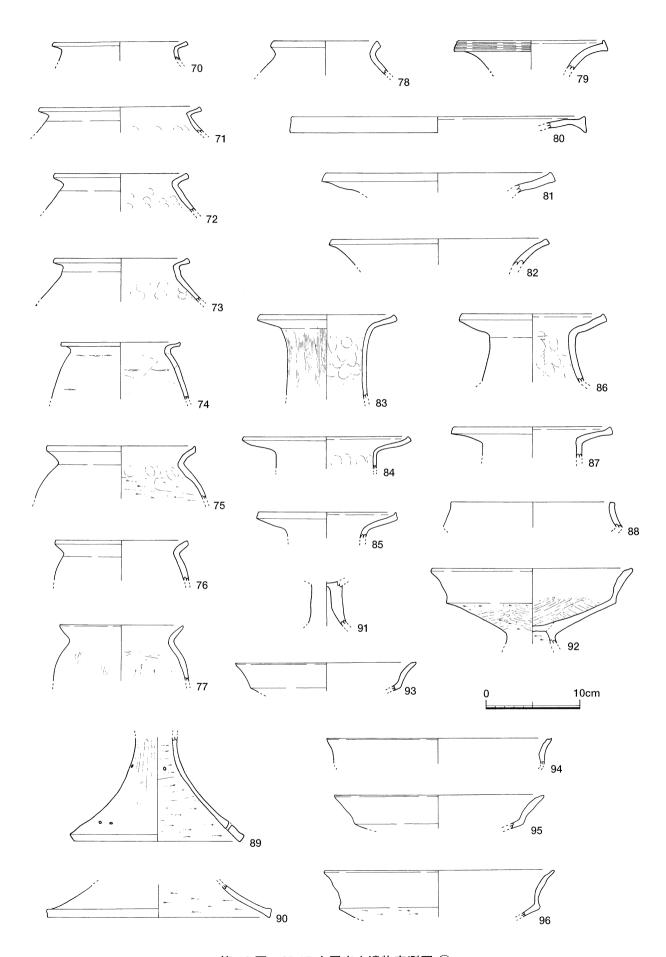
調査区西部で SD17 に切られた状態で検出した溝である。幅 40cm, 検出長 1.44m, 深さ 8cm を測る。埋土は黄灰色粘質シルトの単層で、断面形状は浅い U 字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

# SD22 (第53図)

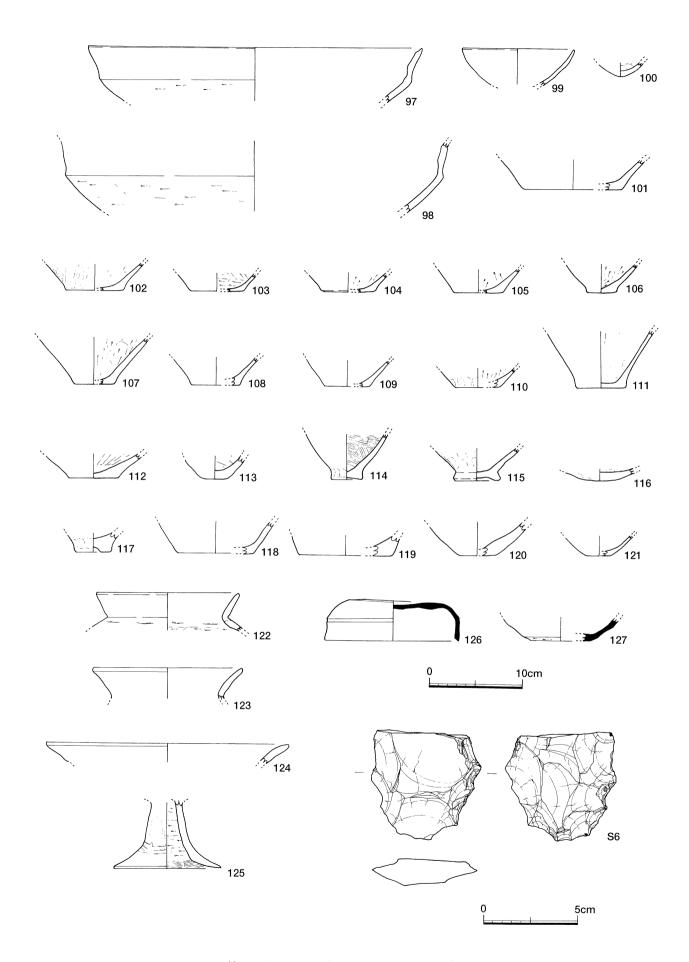
調査区西部で検出した溝である。幅 90cm,検出長 2.28m,深さ 12cm を測る。埋土は黄灰色シルト〜細砂の単層で,断面形状は逆台形である。出土遺物は無く,時期は不明である。

## SD23 (第11·55 図)

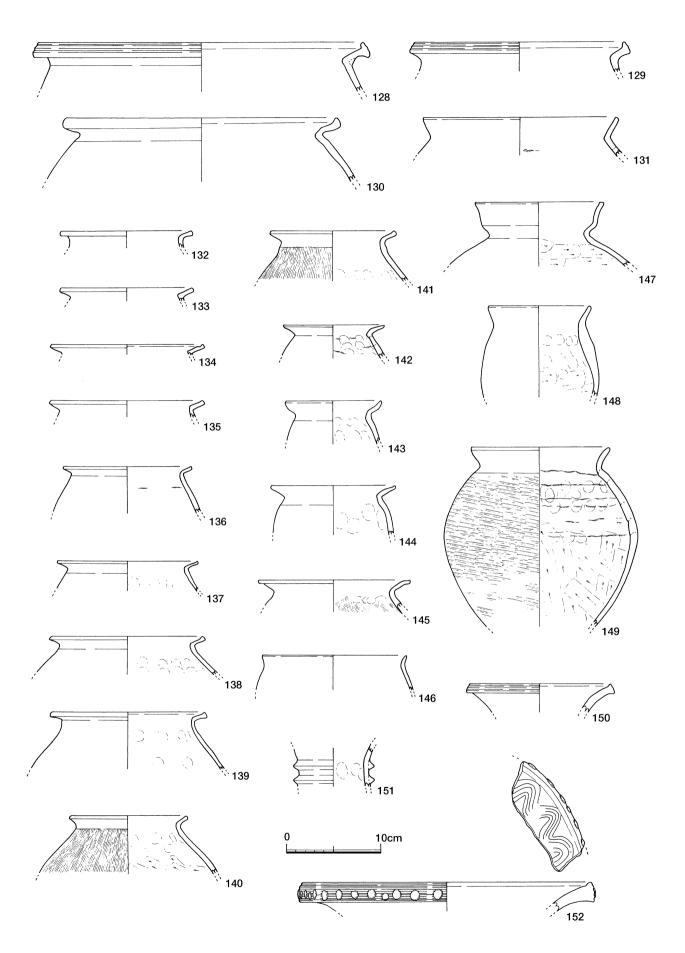
調査区西部で検出した溝である。幅 1.4m, 検出長 9.5m, 深さ 25cm を測る。埋土は黒色砂混粘土の単層で、断面形状は逆台形である。



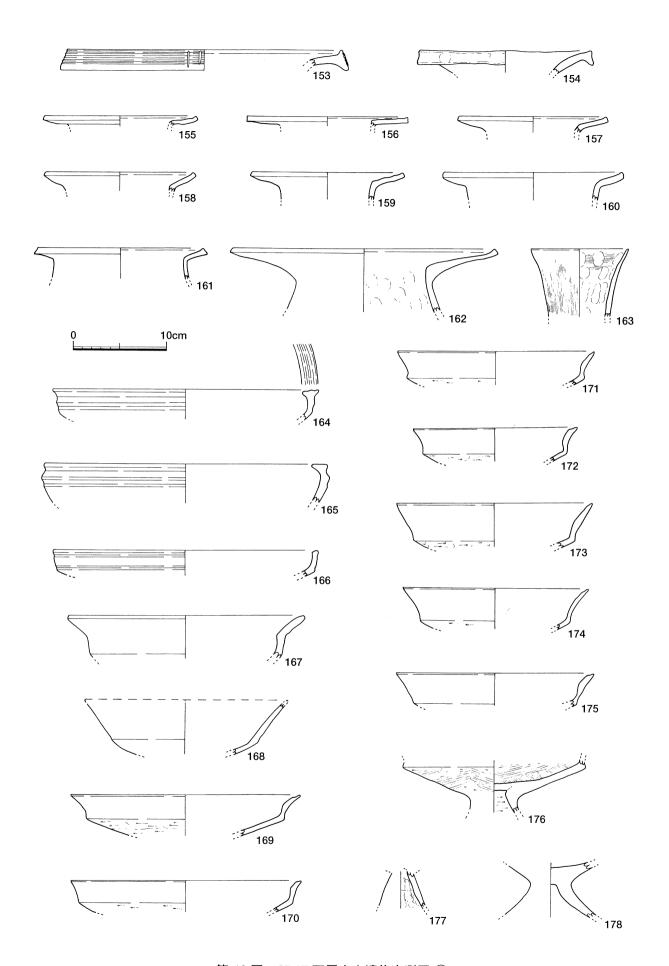
第 46 図 SD17 中層出土遺物実測図 ①



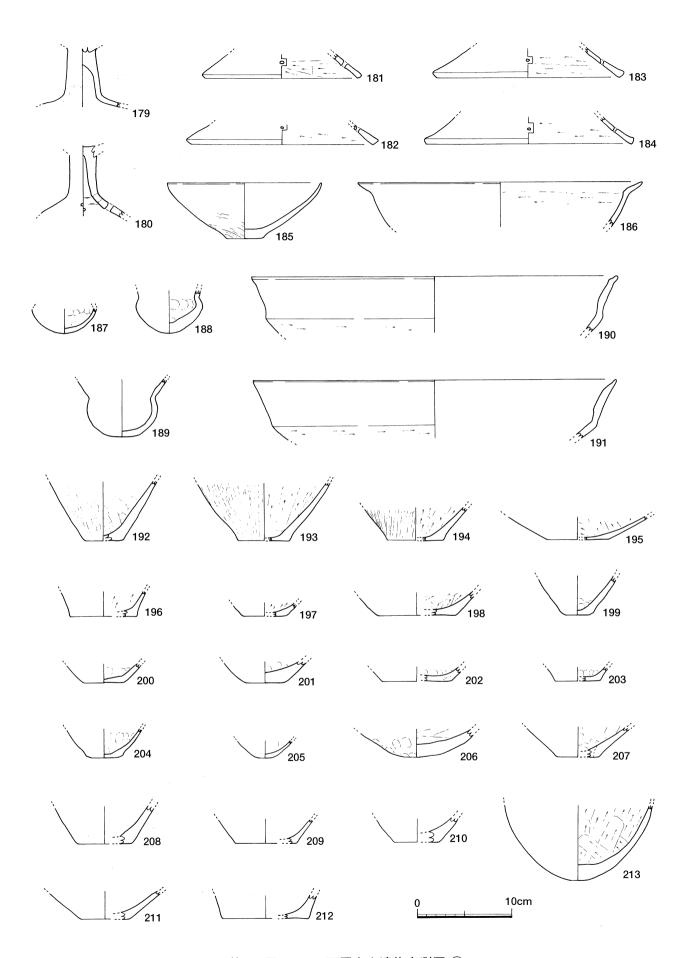
第 47 図 SD17 中層出土遺物実測図 ②



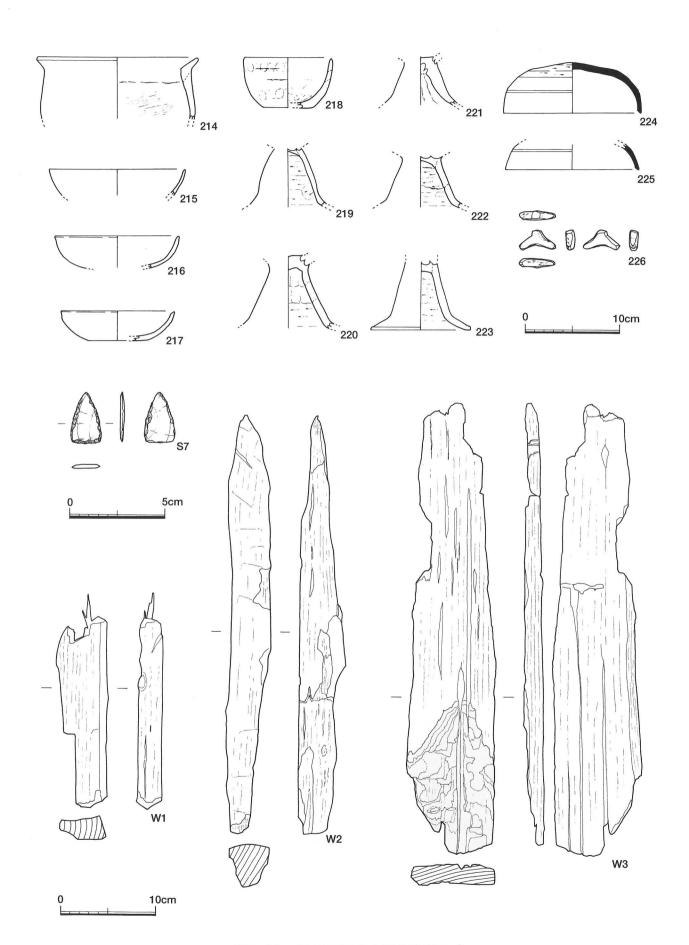
第 48 図 SD17 下層出土遺物実測図 ①



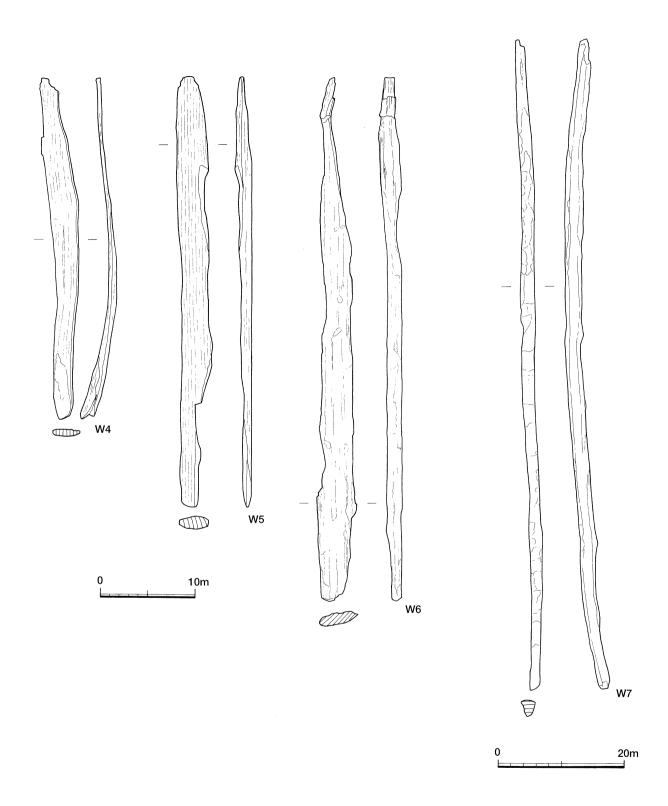
第 49 図 SD17 下層出土遺物実測図 ②



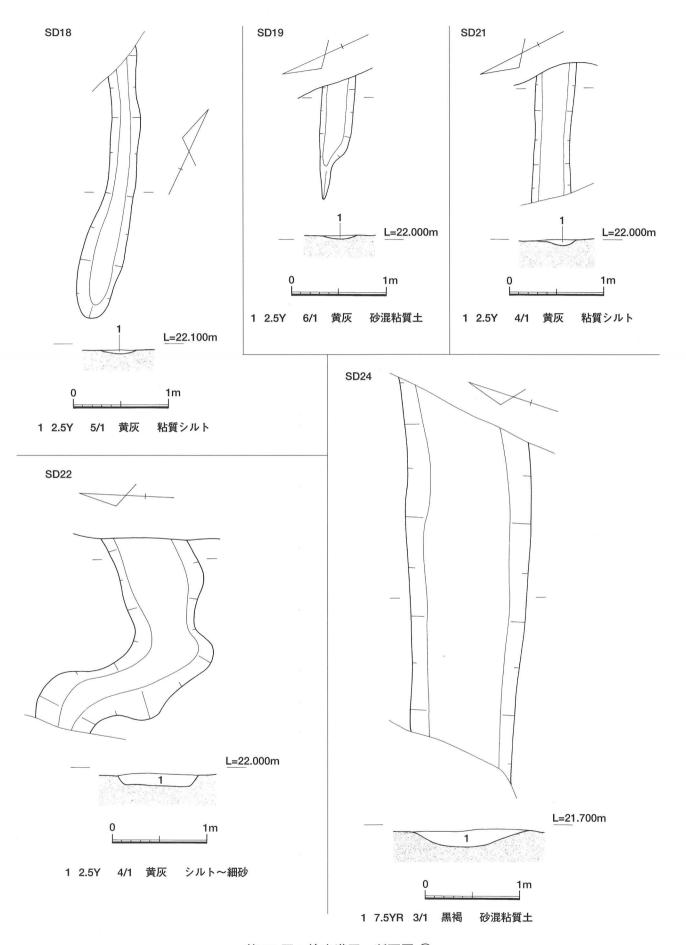
第50図 SD17下層出土遺物実測図 ③



第51図 SD17下層出土遺物実測図 ④



第52図 SD17下層出土遺物実測図⑤

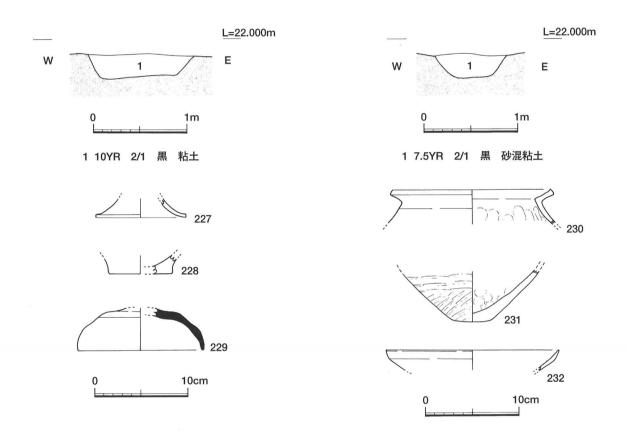


第53図 検出溝平·断面図 ③

出土遺物は第55図に掲載した。230・231は弥生土器で混入品と考えられる。232は土師器の坏である。 SD17を切っており、SD20とほぼ平行していることから、7世紀前半頃の遺構と考えられる。

## SD24 (第53図)

調査区北西部で検出した溝である。幅 1.34m, 検出長 3.7m, 深さ 28cm を測る。埋土は黒褐色砂混粘質 土の単層で、断面形状は浅い U 字である。出土遺物は無く、時期は不明である。

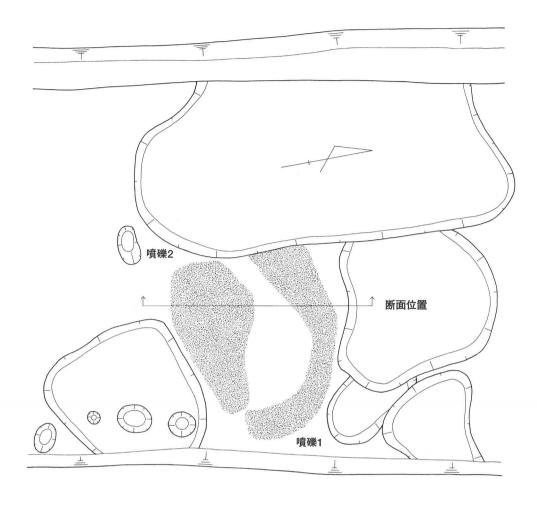


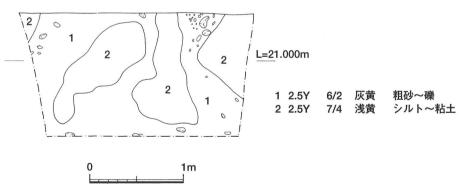
第54図 SD20 断面図及び出土遺物実測図

第55図 SD23 断面図及び出土遺物実測図

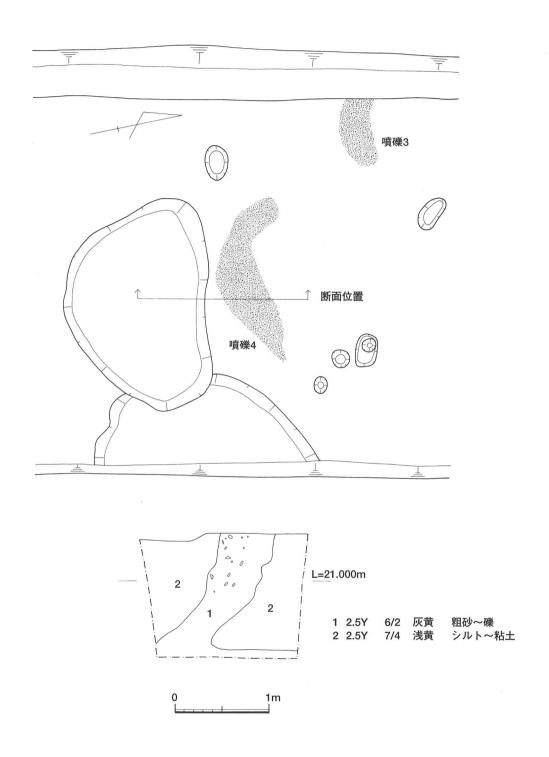
#### 噴礫 (第11・56・57図)

調査区の北東部で4箇所、北西部で2箇所検出した。噴礫1は東西方向に長い溝状で、やや弧を描いており、長さ2.2m、幅35cmを測る。地山の浅黄色シルト〜粘土層の下層に堆積する灰黄色粗砂〜礫層から最大径15cmの礫が噴き上がっており、高さは1.2mを測る。SK8と近接していたが、前後関係は不明である。噴礫2は東西方向に長い溝状で、長さ1.68m、幅86cm、噴礫1同様、地山以下の粗砂〜礫層から最大径10cmの礫が噴き上がっており、高さ1.2mを測る。噴礫3は、西半が調査区外に延びるが、幅30cmを測り、東西方向に長い溝状を呈すると考えられる。噴礫4は東西方向に長い溝状で、やや弧を描いており、長さ1.75m、幅50cmを測る。噴礫1・2同様、地山以下の粗砂〜礫層から最大径10cmの礫が噴き上がっており、高さ1.2mを測る。噴礫1・2同様、地山以下の粗砂〜礫層から最大径10cmの礫が噴き上がっており、高さ1.2mを測る。噴礫5・6は調査区北西端で検出したため、詳細は不明である。いずれの噴礫も時期は不明である。松林遺跡(通学路)において同様の噴礫に弥生中期中葉の土器が供献されており、この噴礫と同時期のものと考えられる。





第56図 噴礫1・噴礫2平・断面図



第57図 噴礫3・噴礫4平・断面図

# 第4章まとめ

## 第1節 遺構の変遷について

今回の調査は細長いトレンチ状の調査であり、不明な点が多いが、土坑20基、溝24条、掘立柱建物2棟を含むピット79基を検出し、弥生時代中期から近世までの遺物がコンテナ10箱分出土した。概ね弥生中期中葉、弥生終末期、古墳時代後期~奈良時代、奈良時代以降、近世の5時期に大別できる。以下に各時期の主要遺構の変遷を掲載し、まとめに変えたい。

## 弥生中期中葉

確実な弥生中期中葉の遺構としては土坑で SK8, ピットで SP1, SP15 がある。いずれも調査地北東端に所在する。なお、遺物を含まない土坑やピットも調査地北東端に偏っており、これらの土坑やピットも当該期の可能性が考えられる。調査地北東端以外では、土坑・ピット等の遺構は散漫であることから、遺跡の北東端が弥生中期中葉の集落域の南限と考えられる。なお、調査で検出された地震痕跡である噴礫は、平成7年度の調査でも検出されており、弥生中期中葉の時期が考えられている。今回の調査では遺構との切り合いが無く不明であるが、東西方向に帯状に延びる点や、同じ礫層から噴き上がっている点などの共通点から、同時期のものである可能性が高い。

## 弥生終末期

弥生終末期の遺物は今回の調査で最も多く出土しているが、確実に当該期の遺構と断定できるものは無い。特に遺跡全体で溝群を検出しているが、当該期のものと古墳時代後期~奈良時代のものを明確に分類できない。古墳時代~奈良時代の溝出土遺物の大半が当該期のものであることから、SD1・2のように弥生終末期の土器片数点しか出土していないような遺構の時期を特定しにくい。これら溝群に切られて検出した SK16については、当該期の可能性が考えられる。遺物量に対し、遺構が少ない点は、溝の上流にあたる多肥松林遺跡(県道)でも同傾向であることから、集落はさらに南に存在すると考えられる。

## 古墳時代後期~奈良時代

SD9・10・17 が該当する。特に SD17 は多肥松林遺跡(都市計画道路) I 区 SD03 から流れ込み, 松林遺跡(通学路) SD201 に続くものと考えられる。松林遺跡(通学路)の調査では、弥生後期~終末期の遺物しか含んでいないため、弥生終末期の埋没を考えていたが、今回の調査で概ね7世紀前半頃まで存続する溝であることが判明した。なお、SD17上面において SD20・23・24 が検出されており、これらの溝は若干後出するものの、条里地割の制約を受けていないことから、条里制施行直前の溝と考えられる。これら以外の溝については、先述のとおり、弥生終末期のものと分類不可能である。また、溝以外の当該期の遺構は見られない。

## 奈良時代以降

弥生終末期もしくは古墳時代後期~奈良時代の溝群と考えられる SD3・4 の上面で検出した掘立柱建物 SB2 を当該期の遺構とした。建物方位が条里地割に合致しており、条里制施行期以降のものと考えられる。調査地北東端で検出した SB1 も出土遺物は無く、時期は不明であるが、条里地割に合致している。いずれも、出土遺物は無く、時期は不明である。

#### 近世

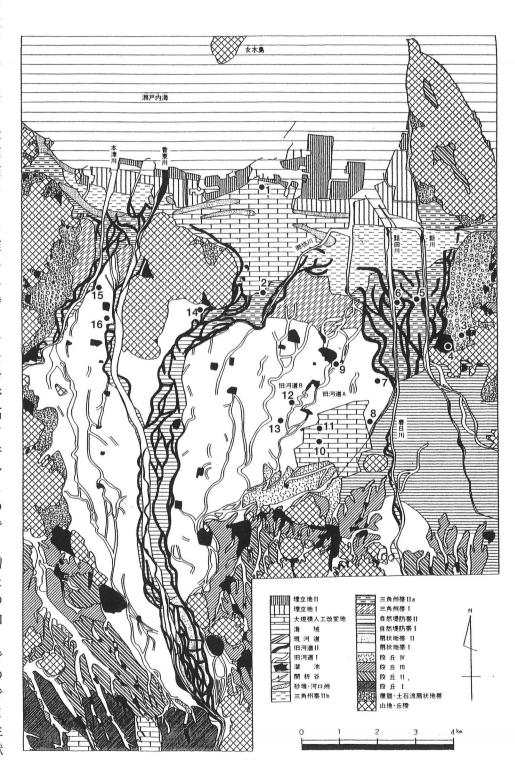
今回の調査地では時期不明の掘立柱建物を除けば、中世の遺構は見られず、遺物も出土していない。今回の調査で検出した遺構のうち最も新しいものが SD5 で、19世紀の遺構と考えられる。SD5 は香川郡 1 条と2 条の条界に位置している。松林遺跡(通学路)においては、この延長部分では 14世紀の溝しか検出していない。現用水路は松林遺跡(通学路)の南で東へ直角に向きを変えている。この溝に平行して 18世紀の遺物を含む SD105 が検出されていることから、概ね近世頃には現在の水路とほぼ同じ流路となったことがわかる。この他、SK18 も SD5 とほぼ同じ埋土であることから、当該期の遺構と考えられる。

# 第2節 高松市における検出された地震痕跡について

100~150年の間隔で発生の恐れがあるとされる東南海・南海地震の防災対策を検討している中央防災会議の専門調査会は平成15年12月16日,「東南海・南海地震対策大綱」を決定した。この大綱において「東南海・南海地震に関わる防災対策特別措置法」に基づき,東南海・南海地震が発生した場合,震度6弱以上の揺れや3メートル以上の津波に見舞われる可能性が高く,建物の耐震化や避難経路の再構築などが必要な「防災対策推進地域」を指定した。推進地域は静岡県から宮崎県までの太平洋沿岸のほか,瀬戸内沿岸の自

遺跡発掘調査にお いては、しばしば地震 の痕跡が検出されてい る。遺構との切り合い 関係から地震年代を特 定することができ、ま た記録に残っていな い地震の発見にもつな がることから, 地震考 古学という新たな分野 が確立されている。高 松平野の遺跡において も, 近年の発掘調査件 数の増加に伴い.数多 くの地震痕跡を検出し ている。平成8年の 集成(大嶋1996)で は6遺跡であったが、 現在16遺跡にまで増 加している。このた め、これら地震痕跡の 集成を行い、その傾向 を探ってみる。

まず、高松平野で 検出された地震痕跡の 年代であるが、特定で きるものは少ない。ま ず、松林遺跡では弥生 中期中葉の土器が供献 されていることから、 弥生中期中葉と判断で



第58図 地震跡検出遺跡位置図(高橋1992地形分類図に加筆)

きる。実年代については今後の科学的な年代決定の確定を待ちたいが、讃岐山脈南麓の中央構造線活断層系 父尾断が 2250 ± 130yBP 直後頃に大地震を発生させた可能性が高いという指摘(岡田・堤 1997)があり、これに伴う可能性が考えられる。また、川南東遺跡においては 18 ~ 19 世紀の旧河道を切っており、昭和の南海地震での被害はなかったという土地所有者の話から安政の南海地震 (1854 年) のものと判断している。川南西遺跡では、慶長の伏見地震(1596 年)または宝永の南海地震(1707 年)の可能性が高いと考えられている。これら以外の地震痕跡については、具体的な年代は不明である。高松平野の場合、堆積が浅く、耕作土直下地山となるところも少なくなく、ほとんどの遺跡では同一面において弥生時代から近世の遺構が検出される。仮に遺構との切り合いがあった場合でも地震痕跡を切る遺構と切られる遺構の 2 時期の遺構が無ければ年代の特定はできない。このため、地震の年代の特定が困難な地域と言わざるをえない。

次に、地震と地形分類との関係である。第58 図は高松平野の地形分類図(高橋 1992)に地震痕跡検出遺跡を重ねたものである。この地震痕跡の分布図からすると、ほぼ扇状地帯と三角州帯に偏る傾向がある。分布では三角州帯より扇状地帯の方が多いが、三角州帯は地盤安定期が近世以降の部分が多く、遺跡の分布が少ないことから、三角州帯より扇状地帯の方が発生頻度が高いとは言い切れない。また、分布の傾向として、下池、長池、大池をつなぐ香東川旧流路(旧河道A)沿いに多い点が注目できる。また、高松平野では、出水が多く所在する。その分布(新見 1989)は、現御坊川(江戸時代の香東川付替以前の旧流路)流域と、香東川旧流路(概ね中世までには埋没完了)に多いことが指摘できる。出水は自噴地下水脈であり、地下水が豊富に所在することを意味するものである。このため、旧河道周辺には現在でも地下水脈が所在し、液状化の起こりやすい環境が整っていることが指摘できる。遺跡ではこれら旧河道も検出されることから、旧河道との関連について表 2 に記した。16 例のうち、旧河道の上面で検出した遺跡は 6 例で、全体の 37.5 パーセントである。調査面積が非常に狭く、不明な遺跡 5 例を除くと、残りの地震痕跡も旧河道に隣接した位置で検出しており、地震痕跡(液状化現象)は旧河道との関連が指摘できる。

以上、高松平野で検出された地震痕跡についてまとめてみた。分布域に関しては旧河道との密接な関係が

表2 高松市内における地震跡検出地一覧表(~2004.6.30)

20	(10 kg) 11 11 [11 Kg] [11]	0-1000	大山地 是武	2004.0.00/			
	遺跡名	所在地	時期	遺構切り合い・時期決定要素	地形分類	旧河道との関連	文献
1	高松城跡(松平大膳 家上屋敷跡)	丸の内	~16 世紀末	16 世紀末までの遺構面で検出	人工改変地 (三角州帯)	全域が旧河道の砂帯	1
2	東中筋遺跡	桜町	中世~ 近世	中世〜近世の層まで噴出	三角州帯	縄文晩期の河道上	2.3
3	久本占墳	新田町	10 世紀~ 11 世紀末	10世紀の層を切り、11世紀末の遺構面形成層にパックされる	崖錘・土石流 扇状地帯	不明	4
4	久米池遺跡	新田町	~現代	時期不明の溝を切る	崖錘・土石流 扇状地帯	時期不明の旧河道に隣接	5
5	川南東遺跡	春日町	1854年	18~19世紀の旧河道を切り,昭 和の南海地震での被害なし	三角州帯	江戸後期の河道上 (全域が 中世までの旧河道の砂帯)	6
6	川南西遺跡	春日町	近世前半~ 近世中葉	16 世紀末の堆積層を切り、18 世紀の洪水層にパックされる	三角州帯	全域が中世までの旧河道 の砂帯	7
7	六条上所遺跡	六条町	~現代	床土直下の地山で検出	扇状地帯	弥生後期〜古墳後期の旧 河道に隣接	8
8	六条下所地区	六条町	~現代	床土直下の地山で検出	扇状地带	不明	9
9	弘福寺領讃岐国山 田郡田図関係遺跡	林町	弥生前期~ 弥生後期	弥生前期の水田を切り,弥生後 期以前の洪水砂層中まで噴出	扇状地带	不明	10
10	空港跡地遺跡	林町	14世紀~	14世紀の柱穴を切る	人工改変地 (扇状地帯)	古墳時代中期の河道上	11
11	一角遺跡	林町	~弥生終末期	弥生終末期までの遺構面で検出	人工改変地 (扇状地帯)	弥生終末期の旧河道に隣 接	12
12	凹原遺跡	多肥下町	古墳時代前期~ 中世	弥生終末期の竪穴住居SH09を 切り,近世の層に削平される	扇状地带	弥生前期〜古墳前期の旧 河道に隣接	13
13	松林遺跡	多肥上町	弥生中期中葉	弥生中期中葉の土器供献	扇状地带	縄文晩期の旧河道に隣接	14
14	西ハゼ土居遺跡	西ハゼ町	~弥生前期中葉	弥生前期中葉の旧河道に切られ る	扇状地带	弥生以前の砂帯	15
15	筑城城跡	鶴市町	16世紀以降	16 世紀の柱穴を切る	扇状地带	不明	16
16	飯田町東青木遺跡	飯田町	中世前半~	中世前半の堆積層を切る	扇状地帯	不明	17

指摘できるが、年代の特定が不十分 である。高松市における地震の被害状 況については、近世(宝永・安政)の 南海地震時の記録しかないことから も、地震痕跡の調査により、地震の被 害について検討していくことが重要と 考えられる。

#### 引用文献

大嶋和則 1996「香川県」『発掘された地震痕跡』 埋文関係救援連絡会議・埋蔵文化財研究会 岡田篤正・堤浩之 1997「中央構造線活断層系父 尾断層の完新世断層活動 - 徳島県市場町でのト

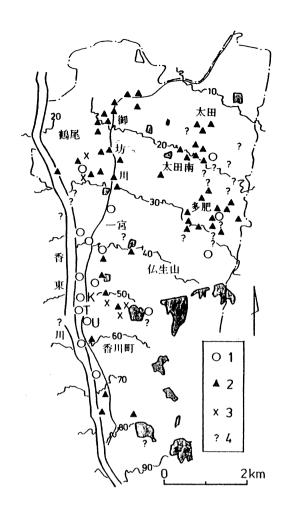
レンチ調査-」『地学雑誌』106 高橋学 1992「高松平野の地形環境」『讃岐国弘

福寺領の調査 弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報

告書』高松市教育委員会 新見治 1989「泉と地下水」『地学雑誌』98-2

## 参考文献

- 1. 小川賢 2004『新ヨンデンビル別館建設に 伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高松城跡(松 平大膳家上屋敷跡)』高松市教育委員会・四 電ビジネス株式会社
- 小川賢・中西克也 2001『都市計画道路東 浜港花ノ宮線建設に伴う埋蔵文化財発掘調 査報告書 第一冊 東中筋遺跡 -第一次調査 - 』高松市教育委員会
- 3. 小川賢 2004『都市計画道路東浜港花ノ宮 線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第 二冊 東中筋遺跡 -第二次調査-』高松市 教育委員会



第 59 図 高松平野の出水分布(1980年代半ば;新見,1989) 1:不断泉 2:一時泉 3:埋立・枯渇 4:不明・測定不能

- 4. 大嶋和則 2004『高松市指定史跡 久本古墳 保存整備・市道新田町 61 号線道路改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー』高松市 教育委員会
- 5. 大嶋和則 2004「久米池遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成 14 年度』香川県教育委員会
- 6. 大嶋和則 2000『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書 第二冊 川南・東遺跡』高松市教育委員会
- 7. 山元敏裕・末光甲正 1999『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書 第一冊 川南・西遺跡』高松市教育委員会
- 8. 北山健一郎 1995『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊 六条・上所遺跡』香川県教育委員会
- 9. 山元敏裕 2003「六条町下所地区」『高松市内発掘調査概報 -平成 14 年度国庫補助事業 』高松市教育委員会
- 10. 山本英之 1992 『讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』高松市教育委員会
- 11. 木下晴一 2002 『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊』香川県教育委員会
- 12. 大嶋和則 2000『特別養護老人ホームさくら荘建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 一角遺跡』高松市教育委員会
- 13. 川畑聰 2001『大田第二土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第五冊 凹原遺跡』高松市教育委員会
- 14. 大嶋和則 1996『香川県立高松桜井高校周辺通学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』高松市教育委員会
- 15. 大嶋和則 1999「西ハゼ土居遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成 9 年度』香川県教育委員会
- 16. 山本英之 1999「高松市立弦打公民館改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 筑城城跡」高松市教育委員会
- 17. 大嶋和則 2004「飯田町東青木遺跡」『高松市内発掘調査概報 -平成 15 年度国庫補助事業 』高松市教育委員会

# 土器観察表

番号	器種	図版	遺構名		法量(ci 底径		外面	内 面	色調	胎土	焼成
1	弥生土器	20	SK8	口住	<b>広住</b>	(5.8)	マメツ	板ナデ	(上=外面, 下=内面) N4/0 灰	やや密	良好
2	甕 弥生土器	20	SK8			(7.4)	マメツ	板ナデ	10YR6/1 褐灰 7.5YR5/3 にぶい褐	1mm以下の石英・長石含む やや粗	
	甕 弥生土器						ナデ	指頭圧のちタテハケ	10YR5/1 褐灰 7.5YR6/4 にぶい橙	3mm以下の石英・長石含む やや密	良好
3	壶	20	SK8			(6.8)	列点文		7.5YR3/1 黒褐	2mm以下の石英・長石含む	良好
4	弥生土器 壺	20	SK8			(10.3)	ナデのちヨコヘラミガキ 	指頭圧	10YR5/2 灰黄褐  5Y4/1 灰	やや粗  3mm以下の石英·長石含む	良
5	弥生土器 広口壺	20	SK8			(5.3)	粗いタテハケ 押圧突帯1条	指頭圧	2.5YR5/6 明赤褐 7.5YR5/3 にぶい褐	やや密 2mm以下の石英・長石・雲母含む	良
6	弥生土器	20	SK8	17.2		(12.0)	粗いタテハケのちヨコヘラミガキ	タテハケのち指頭ナデ	10YR5/1 褐灰	やや密	良好
7	広口壺 弥生土器	22	SK16	14.2		(5.9)	タテハケ	指頭圧	10YR4/1 褐灰 7.5YR6/3 にぶい褐	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む やや密	良好
	<u>甕</u> 弥生土器						ナデのちタテヘラミガキ	指頭圧のちヨコハケ	7.5YR6/4 にぶい橙 5YR6/4 にぶい橙	2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む やや粗	-
8	甕 弥生土器	24	SP1	30.2		(26.7)	波状の列点文2列 ナデ	ナデ	2.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR8/4 浅黄橙	5mm以下の石英・長石・角閃石・金雲母含むやや粗	良好
9	甕	24	SP1	18.1		(2.8)			10YR8/3 浅黄橙	2mm以下の石英·長石含む	良好
10	弥生土器 底部	24	SP1		9.8	(10.1)	タテヘラミガキ	タテハケ	5YR5/3 にぶい赤褐  5YR4/3 にぶい赤褐	やや密 1mm以下の石英·長石·角閃石含む	良好
11	弥生土器 底部	25	SP15		5.2	(8.7)	タテヘラミガキ	指頭圧のちタテヘラケズリ	7.5YR4/2 灰褐 7.5YR3/2 黒褐	やや密 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
12	弥生土器	25	SP15		8.1	(13.6)	タテヘラミガキ	ナデ・指頭圧	5YR6/4 にぶい橙	密サウ	良
13	底部 弥生土器	26	SD1			(6.6)	タテハケ	指頭圧	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	1mm以下の石英・長石含む やや密	良好
	広口壺 弥生土器	-					マメツ	接合痕マメツ	10YR5/3 にぶい黄褐 5YR7/8 橙	3mm以下の石英・長石・角閃石含む やや密	
14	底部 弥生土器	27	SD2		3.8	(4.1)			7.5YR7/4 にぶい橙	1mm以下の石英·長石含む	良好
15	高杯	27	SD2		19.4	(5.5)	ナデ 円形スカシ	ヨコヘラケズリ	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗 1mm以下の石英·長石·角閃石含む	良好
16	須恵器 甕	33	SD9	33.2		(9.1)	平行タタキのちカキ目	同心円あて具痕	5Y7/1 灰白 5Y7/1 灰白	やや密 1mm以下の石英·長石含む	良好
17	弥生土器 底部	33	SD9		4.8	(1.7)	マメツ底面に木葉線刻	マメツ	10YR8/2 灰白	やや粗	良好
18	弥生土器	34	SD10			(2.8)	ヨコヘラケズリ	マメツ	10YR8/3 浅黄橙 7.5YR5/4 にぶい褐	3mm以下の石英·長石含む やや密	良好
19	高杯 弥生土器	34	SD10	14.9		(2.3)	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR6/4 にぷい橙	1mm以下の石英・長石・角閃石含む やや粗	1
	甕 土師器						タタキ	タテヘラケズリ	7.5YR6/4 にぶい橙 2.5YR7/8 橙	3mm以下の石英・長石・角閃石含む 密	良好
20	甕	34	SD10	14.2		(7.1)			5YR7/4 にふい橙	1mm以下の石英·長石含む	良好
21	弥生土器 底部	34	SD10		6.6	(2.3)	マメツ	マメツ	10YR6/4 にぶい橙  10YR5/3 にぷい黄褐	やや粗  2mm以下の石英·長石·角閃石含む	良好
22	弥生土器 底部	34	SD10		4.0	(2.1)	マメツ	マメツ	2.5Y8/2 灰白 10YR8/3 浅黄橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
23	弥生土器	34	SD10		5.6	(2.4)	マメツ	タテヘラケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	良好
24	底部 弥生土器	34	SD10		6.0	(3.6)	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	7.5YR5/6 明褐 10YR6/3 にぷい黄橙	2mm以下の石英·長石·角閃石含む やや粗	良好
	底部 土師器				0.0			ョコナデ	10YR5/2 灰黄褐 10YR7/3 にぷい黄橙	3mm以下の石英・長石含む 粗	-
25	甕	34	SD10	14.8		(3.5)			10YR8/2 灰白	3mm以下の石英·長石·雲母含む	良
26	須恵器 蓋	34	SD10	10.5	5.0	3.8	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ 	N5/0 灰 N5/0 灰	密  1mm以下の石英・長石含む	良好
27	須恵器 坏	34	SD10		8.0	(3.6)	回転ナデ・ヘラ切り	回転ナデ	5Y8/1 灰白  5Y8/1 灰白	密  1mm以下の石英・長石含む	良
28	須恵器 高杯	34	SD10			(5.4)	回転ナデ 沈線1条	回転ナデ	N7/0 灰白 N7/0 灰白	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
29	弥生土器	35	SD11	22.0		(5.0)	マメツ	マメツ	5YR7/6 橙	やや粗	良
30	広口壺 弥生土器	44	SD17	24.0		(3.7)	ヨコナデ	突帯1条   ヨコナデ	5YR7/6 橙 10YR8/2 灰白	3mm以下の石英·長石含む  やや粗	1
							<u>凹線2条・刻目・押圧突帯1条</u> マメツ	マメツ	10YR8/2 灰白 5YR6/3 にぶい橙	2mm以下の石英・長石含む やや粗	良好
31	甕	44	SD17	22.4		(3.2)	凹線2条		7.5YR7/3 にぶい橙	1mm以下の石英·長石含む	良
32	弥生土器 甕	44	SD17	18.0		(4.3)	タテハケ	指頭圧 	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗 3mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
33	弥生土器 甕	44	SD17	13.8		(5.6)	ナデ	指頭圧	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
34	弥生土器 饔	44	SD17	13.7		(2.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	やや粗	良
35	弥生土器	44	SD17	14.4		(1.4)	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/4 にぶい黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む やや密	良
36	<u>甕</u> 弥生土器	44	SD17			(9.0)	タテハケ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄橙 5YR4/6 赤褐	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む やや密	-
	甕 弥生土器						焼成後の穿孔 タテハケのち指頭圧		10YR5/4 にぶい黄褐		良好
3/	甕	44	SD17			(14.4)			7.5YR6/4 にぶい橙	5mm以下の石英・長石含む	良
38	弥生土器 細頸壺	44	SD17			(9.2)	タテハケ	指頭ナデ  絞り痕	5YR5/6 明赤褐 10YR5/3 にぶい黄褐	粗 2mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
39	弥生土器 複合口縁壺	44	SD17	21.6		(4.1)	マメツ	マメツ	7.5YR7/3 にぶい橙 5YR6/6 橙	粗 5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
40	弥生土器	44	SD17	22.0		(2.0)	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぷい褐	密	良好
41	広口壺 弥生土器	44	SD17	24.4		(3.5)	ナデ	ヨコハケ	7.5YR5/4 にぶい褐 10YR7/3 にぷい黄橙	3mm以下の石英·長石·角閃石含む やや祖	-
	広口壺 弥生土器	<u> </u>					接合痕マメツ	マメツ		2mm以下の石英·長石·雲母含む やや粗	良好
42	広口壺	44	SD17			(2.7)	凹線4条		2.5Y7/2 淡黄	2mm以下の石英・長石含む	不良
43	弥生土器 高杯	44	SD17	27.2		(4.6)	ヨコヘラケズリ	マメツ	7.5YR5/4 にぷい褐 7.5YR5/4 にぷい褐	やや粗 3mm以下の石英·長石·角閃石·雲母含む	良好
	弥生土器 高杯	44	SD17	17.0		(5.5)	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗 3mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
45	弥生土器	44	SD17	19.6		(2.4)	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや密	良好
46	高杯 弥生土器	44	SD17			(3.2)	マメツ	指頭圧	7.5YR5/4 にぶい褐 10YR8/1 灰白	1mm以下の石英・長石・角閃石含む 密	
-70	高杯	77	5517			(0.2)			10YR8/1 灰白	1mm以下の石英·長石含む	良好

	弥生土器						ナデ	ヘラケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや密	
47	高杯	44	SD17		23.0	(3.9)			7.5YR4/4 褐	1mm以下の石英·長石·角閃石·雲母含む	良好
48	弥生土器 高杯	44	SD17		20.2	(2.4)	ナデ 	ヨコヘラケズリ	7.5YR5/6 明褐 7.5YR5/6 明褐	やや粗 2mm以下の石英·長石含む	良好
49	弥生土器 高杯	44	SD17		19.0	(3.8)	ナデ	3コヘラケズリ 	5YR4/4 にぶい赤褐 7.5YR4/6 橙	やや粗 2mm以下の石英·長石·角閃石·雲母含む	良好
50	弥生土器 高杯	44	SD17		20.2	(4.2)	ナデ	ヨコヘラケズリ	7.5YR4/4 褐 7.5YR4/4 褐	やや粗 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
51	弥生土器 鉢	44	SD17	45.2		(3.5)	マメツ 凹線2条	マメツ	2.5Y7/2 灰黄	やや粗 2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
52	弥生土器	44	SD17			(2.7)	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	良好
53	製塩土器 弥生土器	44	SD17		10.0	(2.4)	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐 5YR7/6 橙	2mm以下の石英·長石含む やや粗	良好
54	小型丸底土器 弥生土器	45		21.9	10.0	(5.5)	ナデ	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄 7.5YR5/3 にぶい褐	2mm以下の石英·長石·角閃石含む やや密	-
<u> </u>	鉢 弥生土器		SD17	21.9			ナデ	ナデ	10YR6/4 にぷい黄橙 7.5YR6/4 にぷい橙	2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む やや密	良好
55	底部 弥生土器	45	SD17			(2.7)	マメツ	マメツ	7.5YR6/4 にぷい橙 7.5YR8/4 浅黄橙	3mm以下の石英・長石含む 密	良
56	底部	45	SD17		2.8	(1.8)	焼成前の穿孔		7.5YR8/4 浅黄橙	1mm以下の石英·長石含む	良好
57	弥生土器 底部	45	SD17		2.3	(1.4)	マメツ 焼成前の穿孔	指頭圧	10YR1.7/1 黒 2.5Y7/3 浅黄	やや密 1mm以下の石英·長石含む	良
58	弥生土器 底部	45	SD17		2.3	(2.2)	マメツ	指頭圧	10YR5/2 灰黄褐 10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
59	弥生土器 底部	45	SD17		3.6	(1.9)	ナデ	指頭圧	5YR6/6 橙 2.5Y5/1 黄灰	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
60	弥生土器	45	SD17		4.0	(3.7)	マメツ	マメツ	2.5Y5/6 明赤褐	やや密	良
61	底部 弥生土器	45	SD17		3.4	(2.8)	マメツ	マメツ	10YR7/3 にぷい黄橙 2.5YR5/6 明赤褐	1mm以下の石英・長石含む やや粗	良好
62	底部 弥生土器	45	SD17		6.0	(1.6)	マメツ	マメツ	2.5Y7/2 灰黄 2.5YR5/6 明赤褐	3mm以下の石英·長石含む やや密	良好
	底部 弥生土器						マメツ	マメツ	2.5Y6/1 黄灰 5YR6/6 橙	3mm以下の石英·長石含む 粗	-
63	底部 土師器	45	SD17		6.0	(3.6)	マメツ	ヨコヘラケズリ	10YR7/3 にぷい黄橙	5mm以下の石英・長石含む やや粗	良好
64	高杯	45	SD17			(9.2)	焼成後の穿孔		2.5Y7/2 灰黄	3mm以下の石英·長石·角閃石·雲母含む	良
65	土師器 高杯	45	SD17			(5.6)	マメツ	ヨコヘラケズリ	5YR8/2 灰白 5YR8/2 灰白	やや粗 2mm以下の石英・長石・雲母含む	良好
66	土師器 坏	45	SD17	11.6		(5.3)	マメツ	マメツ	2.5YR5/6 明赤褐 2.5YR5/6 明赤褐	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
67	須恵器 泰	45	SD17	15.6		(8.2)	平行タタキのちカキ目	回転ナデ	N5/0 灰 N5/0 灰	密 3mm以下の石英・長石含む	良好
68	須恵器	45	SD17			(1.4)	回転ナデ	回転ナデ	5B5/1 青灰	やや密	良好
69	蓋 須恵器	45	SD17	13.9		(3.6)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	5B6/1 青灰 5PB5/1 青灰	3mm以下の石英・長石含む やや粗	良好
70	坏 弥生土器	46	SD17	14.0		(2.0)	マメツ	マメツ	N5/0 灰 5YR6/6 橙	5mm以下の石英・長石含む やや密	良
-							マメツ	指頭圧	5YR6/6 橙 10YR6/4 にぶい黄橙	1mm以下の石英・長石・角閃石含む やや密	
71	甕 弥生土器	46	SD17	17.0		(2.7)	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぷい黄橙 5YR5/6 明赤褐	1mm以下の石英・長石・角閃石含む やや密	良
72	甕	46	SD17	13.9		(4.1)			5YR5/6 明赤褐	1mm以下の石英·長石·角閃石·雲母含む	良
73	弥生土器	46	SD17	14.0		(4.6)	マメツ	指頭圧	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4 にぷい褐	やや密 1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
74	弥生土器 甕	46	SD17	12.6		(6.1)	ナデ 接合痕	板ナデ  接合痕	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/2 灰黄褐	密 1mm以下の石英・長石・雲母含む	良
75	弥生土器 甕	46	SD17	15.7		(5.6)	ナデ	ヨコヘラケズリのち指頭圧	7.5YR5/4 にぷい褐 10YR5/3 にぷい黄褐	やや密 1.5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
76	弥生土器 甕	46	SD17	14.0		(4.3)	マメツ	マメツ	7.5YR6/3 にぶい褐 10YR6/3 にぶい黄橙	やや粗 1mm以下の石英・長石含む	良
77	弥生土器	46	SD17	13.0		(6.0)	タテハケ	タテヘラケズリのちヨコハケ	10YR6/4 にぷい黄橙	やや密	良
78	弥生土器	46	SD17	11.2		(3.8)	マメツ	マメツ	2.5YR6/3 にぷい橙	1mm以下の石英·長石·角閃石·雲母含む やや粗	良
79	甕 弥生土器	46	SD17			(3.1)	マメツ	マメツ	10YR6/1 褐灰   10YR5/4 にぶい黄褐	2mm以下の石英·長石含む やや密	良
-	広口壺 弥生土器	-					<u></u> 凹線3条 マメツ	マメツ	10YR5/4 にぶい黄褐 10YR8/2 灰白	1mm以下の石英・長石・角閃石含む やや粗	-
80	広口壺 弥生土器	46	SD17			(1.7)	ナデ	ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙 7.5YR6/4 にぶい橙	3mm以下の石英・長石含む やや粗	不良
81	広口壺	46	SD17	24.0		(2.1)			7.5YR6/6 橙	2mm以下の石英·長石含む	良
82	弥生土器 広口壺	46	SD17	22.9		(2.8)	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
83	弥生土器 長頸壺	46	SD17	14.8		(7.3)	ナデ	指頭ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
84	弥生土器 広口壺	46	SD17	16.4		(3.3)	マメツ	マメツ	10YR5/4 にぶい黄褐 7.5YR5/6 明褐		良
85	弥生土器 広口壺	46	SD17	14.2		(9.0)	タテハケ	指頭圧	7.5YR5/6 明褐	やや粗	良
86	弥生土器	46	SD17	17.6		(3.4)	マメツ	指頭圧	5YR5/4 にぶい赤褐	2mm以下の石英・長石・角閃石含む やや粗	良好
87	広口壺 弥生土器	46	SD17			(3.6)	マメツ	マメツ	7.5YR8/3 浅黄橙	2mm以下の石英・長石・角閃石含む やや密	良好
88	広口壺 弥生土器						マメツ	マメツ	7.5YR8/2 灰白 5YR5/4 にぶい赤褐	1mm以下の石英・長石含む やや密	-
	複合口縁壺 弥生土器	46	SD17	17.2		(2.7)	タテヘラミガキ	ヨコヘラケズリ	7.5YR5/6 明褐 2.5Y5/2 暗灰黄	2mm以下の石英・長石・角閃石含む やや密	良好
89	高杯	46	SD17			(11.0)	円形スカシ3方2段		2.5Y5/2 暗灰黄	1㎜以下の石英・長石・角閃石含む	良好
90	弥生土器 高杯	46	SD17		23.8	(3.4)	ナデ	ヨコヘラケズリ	5YR5/6 明赤褐 5YR5/6 明赤褐	密 2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
91	弥生土器 高杯	46	SD17			(4.7)	ナデ	ナデ 	2.5YR6/6 橙 2.5YR6/6 橙	やや密 3mm以下の石英·長石含む	良好
92	弥生土器 高杯	46	SD17	23.6		(8.0)	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ・ヨコヘラケズリ	5YR5/4 にぶい赤褐 7.5YR4/4 褐	やや密 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良好
93	弥生土器 高杯	46	SD17	19.1		(3.0)	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗 2mm以下の石英・長石含む	良好
94	弥生土器	46	SD17	23.8		(2.7)	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	密	良好
	高杯							1	7.5YR6/3 にぶい褐	1mm以下の石英·長石·角閃石含む	

		<b>改</b> 十 土 里	_					7 101	マメツ	10VDc/2 1= 2°1.)	かか細	
Page	95		46	SD17	22.2		(3.5)	マメツ				良好
19	96		46	SD17	24.4		(4.9)	ヨコヘラケズリ	ナデ			良好
Page	97	弥生土器	47	SD17	35.6		(5.8)	ヨコヘラケズリ	マメツ	5YR6/4 にぶい橙	やや粗	良
Page	00		47	CD17			(7 E)		ナデ			± 47
Page			47	3017			(7.5)	7,101				及好
Manufaction   Manufaction	99	鉢	47	SD17	11.8		(3.8)	<b>4</b> × 7		10YR7/2 にぶい黄橙		良
10	100		47	SD17			(1.5)	ナデ	指頭圧			良好
Page	101	弥生土器	47	SD17		10.2	(3.2)	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	良
Page	102		47	SD17		5.0	(2.1)	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ			
1								マメツ	ヨコヘラケズリ			$\vdash$
Page	103	底部	47	SD17		5.8	(2.0)			2.5Y4/1 黄灰	1mm以下の石英·長石·角閃石·雲母含む	良
19	104		47	SD17		5.8	(2.1)	マメツ	タテヘラケスリ			良好
19	105		47	SD17		5.0	(2.5)	マメツ	タテヘラケズリ		やや密	良
Page	106	弥生土器	47	SD17		3.2	(3.1)	マメツ	タテヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗	良
Mac			_					マメツ	タテヘラケズリ			-
1	107	底部	4/	SD17		4.0	(5.0)			5YR6/6 橙	1mm以下の石英·長石含む	艮
Page	108	底部	47	SD17		5.2	(3.0)	マメツ	489			良
19	109		47	SD17		4.6	(2.6)	マメツ	マメツ			良
변변 변변 명	110	弥生土器	47	SD17		4.6	(21)	指頭圧	タテヘラケズリ	10R4/6 赤	やや粗	良
Reference	<u> </u>							マメツ	板ナデ			
19   19   19   19   19   19   19   19	111	底部	47	SD17		5.0	(6.1)			2.5Y4/1 黄灰	3mm以下の石英・長石含む	艮
14	112		47	SD17		5.2	(2.6)		似アア			良好
特別	113	弥生土器	47	SD17		2.7	(2.5)	マメツ	板ナデ		やや粗	良
Part	114	弥生土器	47	SD17		3.2	(4.8)	指頭圧	ヨコハケ	2.5YR7/6 橙	やや密	la la
18								指頭ナデ	ナデ			-
「機能	L	底部	47	SD17		4.6	(3.4)			10YR7/2 にぶい黄橙	1mm以下の石英・長石含む	艮好
	116		47	SD17		4.4	(1.3)	<b>指</b> 頭比	指頭圧			良好
10   10   10   10   10   10   10   10	117		47	SD17		3.4	(2.1)	指頭圧	マメツ			良好
株田本   1	118	弥生土器	47	SD17		7.9	(3.5)	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	Ŕ
28	<u> </u>							マメツ	マメツ			<del>  </del>
28	L	底部	4/	SDI7		9.6	(2.1)			7.5YR6/4 にぶい橙		
Marie   Ma	120	底部	47	SD17		3.8	(3.6)		\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\			良
12   上部等	121		47	SD17		2.2	(2.1)	マメツ	マメツ			良
15   15   15   15   15   15   15   15	122	土師器	47	SD17	15.0		(4.2)	ナデ	ヨコヘラケズリ	5YR6/6 橙	やや粗	良
1	100		47	CD17	150		(2.2)	マメツ	マメツ			-
18	123	甕	47	5017	15.8				7.50			
12   海麻   4   SD17   14   15   15   15   15   15   15   15	124	甕	47	SD17	25.8		(2.0)			7.5YR6/1 褐灰	3mm以下の石英·長石含む	良
125   万東本盤   47   SD17   142   95   43   回転ヘラケズリ・回転ナデ   回転ナデ   NS/O 医   NS/O E	125		47	SD17		11.4	(7.0)	板ナデ 	3コヘラケズリのち3コハケ			良好
12   加速器   47   SD17   62   (2.5   回転ナデー回転へラケズリ   回転ナデ   10BG5/1 青灰   10BG6/1 青	126	須恵器	47	SD17	14.2	9.5	4.3	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ		密	良好
Process	127		47	SD17		6.2	(2.5)	回転ナデ・回転ヘラケズリ				白奴
129   弥生土器   48   SD17   220   226   2	⊢					0.2		74"	74"			
130	128	甕	48	SD17	39.6		(5.2)			7.5YR6/3 にぶい褐	2mm以下の石英·長石·角閃石含む	良好
130	129		48	SD17	22.0		(2.6)		ナデ			良
10   10   10   10   10   10   10   10	130	弥生土器	48	SD17	28.8		(6.8)		ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	良
接合領	⊢	弥生土器	10	SD17	20.2		(4.0)	  ヨコナデ	   ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや祖	
182   標	<u> </u>	甕					<u> </u>					
1978   1978	132	甕	48	SD17	13.8		(1.8)			7.5YR6/6 橙	1mm以下の石英・長石含む	良
134	133		48	SD17	13.8		(1.4)	ナ <del>デ</del> 	ナデ			良
135   数生土器   48   SD17   16.0   (1.8)   ヨコナデ   ヨコナデ   10YR4/3 にぶい黄褐   やや密   良好   136   数生土器   48   SD17   134   (5.0)   ナデ   ナデ   アジャドシイ にぶい褐   7.5YR5/4 にぶい褐   1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母合む   良好   数生土器   48   SD17   14.8   (3.2)   マメツ   指頭圧   10YR6/2   灰黄褐   10WR6/2   灰黄褐   1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母合む   良好   138   数生土器   48   SD17   16.0   (4.0)   ナデ   指頭圧   7.5YR5/4   にぶい褐   7.5YR5/4   にぶい岩   7.5YR5/4   にぶい褐   7.5YR5/4   にぶい岩   7.5YR5/6   1.5XL2	134	弥生土器	48	SD17	16.0		(1.1)	マメツ	マメツ	7.5YR5/3 にぶい褐	やや密	良好
10YR5/4 にぶい黄褐   1mm以下の石英・長石含む   RY	125	弥生土器	10	SD17	160		(10)	] ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/3 にぷい黄褐	やや密	良加
137		甕	├		-			<u>+=</u>				
18		甕	48	SD17	13.4		(5.0)			7.5YR5/4 にぷい褐	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
138   数生土器   48   SD17   16.0   (4.0)   ナデ   指頭圧   7.5YR5/4   にぶい橋   7.5YR5/4   にぶい後   7.5YR5/4   にぶい後   7.5YR5/4   にぶい後   7.5YR5/4   にぶい後   7.5YR5/4   にぶいを   7.5YR5/6     7.5	137		48	SD17	14.8		(3.2)	マメツ	指頭圧			良好
139   弥生土器   48   SD17   8.3   (6.0) マメツ   指頭圧   7.5YR5/4 にぶい褐   7.5YR5/4 にぶい褐   3mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む   良   140   弥生土器   48   SD17   12.0   (6.2)   タテハケ   指頭圧   7.5YR5/4 にぶい褐   10YR5/4 にぶい横   10YR5/4 にぶ	138	弥生土器	48	SD17	16.0		(4.0)	ナデ	指頭圧	7.5YR5/4 にぶい褐	やや密	良好
<ul> <li>現</li></ul>	130	弥生土器	48	SD17	8.3		(6.0)	マメツ	指頭圧	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	i i
48   SD17   120   (6.2)   141   東			├				ļ					-
10YR5/4 にぶい黄褐   1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母合む   10YR5/4 にぶい黄褐   1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母合む   142	140	甕	48	SD17	12.0		(6.2)			7.5YR5/4 にぶい褐	5mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	艮
142     弥生土器 痩     48     SD17     10.7     (3.5)     マメツ     指頭圧 接合痕     7.5YR7/4 にぶい橙 3mm以下の石英・長石・雲母含む 3mm以下の石英・長石・雪母含む 48     良       143     寮生土器 痩     48     SD17     10.0     (4.5)     マメツ     指頭圧 7.5YR8/2 灰白 3mm以下の石英・長石含む 40     ウや粗 3mm以下の石英・長石含む 40       144     弥生土器 68     SD17     12.0     (5.0)     マメツ     指頭圧 7.5YR8/3 にぶい褐 7.5YR8/3 にぶい	141		48	SD17	10.7		(5.3)	ダナハケ 	指頭灶			良
143     弥生土器 変     48     SD17     10.0     (4.5)     マメツ     指頭圧     7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR8/2 灰白 3mm以下の石英・長石含む     食       144     弥生土器 48     SD17     12.0     (5.2)     マメツ     指頭圧     7.5YR6/3 にぶい褐 やや粗     ウや粗	142	弥生土器	48	SD17	10.7		(3.5)	マメツ		7.5YR7/4 にぶい橙	粗	良
選	142	弥生土器	40	SD17	10.0		(4.5)	マメツ		7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗	良
	<u> </u>	35. 生 土 哭						マメツ	指頭圧			+-+
	144		48	SD17	12.9		(5.2)	-				艮

	弥生土器						ナデ	指頭圧のちタテハケ	10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗	Т. Т
145	甕	48	SD17	13.8		(3.4)			7.5YR6/4 にぶい橙	2mm以下の石英·長石含む	良
146	弥生土器 甕	48	SD17	15.2		(3.7)	ナデ 	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐 10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗 3mm以下の石英·長石含む	良好
147	弥生土器 甕(山陰系)	48	SD17	13.6		(6.8)	ナデ	ヨコヘラケズリ	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR8/2 灰白	粗 4mm以下の石英·長石含む	良
148	弥生土器	48	SD17	10.8		(9.7)	マメツ	ヨコヘラケズリのち指頭圧	5Y6/1 灰	粗	良
	甕(阿波) 弥生土器	48	SD17	14.4		(19.1)	タタキのちナデ	タテヘラケズリのち指頭圧	5Y6/2 灰オリーブ 10YR8/2 灰白	5mm以下の石英・長石, 結晶片岩含む 粗	良好
	甕 弥生土器	40					マメツ	接合痕マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙 5Y6/4 にぶい橙	4m以下の石英·長石·雲母含む やや粗	
	広口壺	48	SD17	15.0		(3.1)	凹線2条		N3/0 暗灰	2mm以下の石英·長石含む	良
151	弥生土器 広口壺	48	SD17			(4.5)	ナデ  貼付突帯文	指頭圧	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/2 灰褐	やや粗  2mm以下の石英·長石·角閃石·雲母含む	良
152	弥生土器 広口壺	48	SD17	30.7		(3.0)	ヨコナデ 凹線4条・円形浮文	マメツ波状文	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗 3mm以下の石英·長石含む	良好
153	弥生土器	49	SD17	29.0		(2.2)	マメツ	マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	密	良
154	広口壺 弥生土器		SD17	18.0		(2.4)	凹線4条・棒状浮文 ナデ	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙 7.5YR7/6 橙	1mm以下の石英·長石含む やや粗	良
	広口壺 弥生土器	49					マメツ	マメツ	7.5YR7/6 橙 10YR6/3 にぶい黄橙	2mm以下の石英·長石·角閃石含む やや密	-
155	広口壺	49	SD17	16.0		(1.0)			2.5Y6/2 黄灰	3mm以下の石英·長石·角閃石含む	良好
156	弥生土器 広口壺	49	SD17	17.0		(1.0)	ヨコナデ 	ヨコナデ 	5YR5/4 にぷい赤褐 5YR5/4 にぷい赤褐	やや粗  3mm以下の石英·長石·角閃石含む	良
157	弥生土器 広口壺	49	SD17	15.6		(1.7)	マメツ	マメツ	5YR5/6 明赤褐 5YR5/6 明赤褐	やや密 1mm以下の石英·長石·角閃石含む	良
158	弥生土器	49	SD17	15.6		(2.1)	マメツ	マメツ	10YR6/4 にぶい黄橙	やや密	良
	広口壺 弥生土器						ナデ	  ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙   10YR6/3 にぶい黄橙	1mm以下の石英·長石含む やや密	
159	広口壺 弥生土器	49	SD17	15.8		(2.9)	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/3 にぶい黄褐 7.5YR5/4 にぶい褐	1mm以下の石英·長石角閃石含む やや密	良好
160	広口壺	49	SD17	18.8		(2.9)			7.5YR5/6 明褐	1mm以下の石英·長石·角閃石·雲母含む	良
161	弥生土器 広口壺	49	SD17	9.4		(3.3)	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
162	弥生土器 広口壺	49	SD17	27.6		(6.8)	マメツ	指頭圧	2.5YR6/8 橙 2.5YR6/8 橙	粗 5mm以下の石英·長石含む	良
163	弥生土器	49	SD17	10.4		(7.2)	タテハケ	指頭圧のちヨコハケ	7.5YR6/4 にぶい橙	やや密	良好
-	細頸壺 弥生土器						マメツ	マメツ	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む やや粗	-
164	高杯	49	SD17	30.0		(3.2)	凹線2条 マメツ	マメツ	7.5YR5/6 明褐 10YR6/3 にぷい黄橙	1mm以下の石英・長石含む やや祖	良
165	弥生土器 高杯	49	SD17	30.0		(4.1)	凹線2条		10YR6/3 にぶい黄橙	1mm以下の石英·長石·雲母含む	良
166	弥生土器 高杯	49	SD17	28.0		(2.7)	マメツ 凹線2条	マメツ	2.5Y5/1 黄灰 7.5Y5/3 にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
167	弥生土器	49	SD17	25.0		(4.5)	ナデ	ナデ	5YR6/4 にぷい橙	やや粗	良
168	高杯 土師器	49	SD17			(5.5)	マメツ	マメツ	5YR6/6 橙 2.5Y7/2 灰黄	3mm以下の石英・長石含む   やや粗	良好
-	高杯 弥生土器				_		ヨコヘラケズリ	ナデ	7.5YR6/6 橙 7.5YR5/3 にぶい褐	3mm以下の石英・長石含む やや粗	
169	高杯	49	SD17	24.3		(4.3)			7.5YR5/3 にぶい褐	3mm以下の石英・長石含む	良
170	弥生土器 高杯	49	SD17	24.4		(3.3)	ヨコヘラケズリ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐	やや密  1mm以下の石英・長石含む	良好
171	弥生土器  高杯	49	SD17	29.0		(3.6)	ナデ	ヨコヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐   10YR5/4 にぶい黄褐	やや密  1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
172	弥生土器	49	SD17	17.4		(3.6)	ヨコヘラケズリ	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	やや密 2mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
173	高杯 弥生土器	49	SD17	20.8		(4.7)	ヨコヘラケズリ	ナデ	10YR5/4 にぷい黄褐   10YR5/3 にぷい黄褐	やや粗	良好
-	高杯 弥生土器						ヨコヘラケズリ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐 7.5YR6/3 にぶい褐	3mm以下の石英・長石・角閃石含む  やや密	-
174	高杯	49	SD17	19.7		(4.3)		マメツ	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/4 にぶい褐	3mm以下の石英・長石含む やや粗	良好
175	弥生土器 高杯	49	SD17	21.0		(3.4)	マメツ	(XX)	7.5YR6/4 にぶい橙	2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
176	弥生土器 高杯	49	SD17			(5.6)	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ・ヨコヘラケズリ	10YR5/4 にぶい黄褐 10YR6/3 にぶい黄橙	やや密  2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
177	弥生土器	49	SD17			(4.0)	マメツ	指頭圧	5YR6/6 橙 5YR6/6 橙	密	良
178	高杯 弥生土器	49	SD17			(5.8)	マメツ	接合痕・絞り痕   マメツ	7.5YR6/6 橙	1mm以下の石英・長石含む 粗	良
├	高朴 改井 土 架						  +=*	ナデ	7.5YR5/1 褐灰 5Y5/6 明赤褐	3mm以下の石英・長石含む 粗	-
179	高杯	50	SD17			(6.2)			5Y5/6 明赤褐	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良
180	<b>高</b> 杯	50	SD17			(7.5)	マメツ 円形スカシ4方	マメツ 接合痕	7.5YR5/4 にぶい褐 7.5YR5/4 にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
181	弥生土器 高杯	50	SD17		16.1	(2.5)	マメツ 円形スカシ	ヨコヘラケズリ	7.5YR5/6 明褐 7.5YR5/6 明褐	やや密 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む	良
182	弥生土器	50	SD17		19.0	(2.1)	マメツ	ヨコヘラケズリ	7.5YR4/4 褐	やや密	良好
183	高杯 弥生土器	50	SD17		19.0	(3.2)	円形スカシマメツ	ヨコヘラケズリ	7.5YR4/4 褐 10YR5/4 にぶい黄褐	1mm以下の石英・長石・角閃石含む やや密	良
├	高朴						円形人刀ン	ヨコヘラケズリ	10YR5/4 にぶい黄褐 7.5YR5/4 にぶい褐	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む 密	
184	高杯	50	SD17		21.6	(2.9)	円形スカシ		7.5YR5/4 にぶい褐	1mm以下の石英·長石·角閃石含む	良好
185	弥生土器 鉢	50	SD17	16.2	3.6	5.9	<b>9</b> 9 <b>+</b> 	マメツ	7.5YR8/3 浅黄橙 7.5YR8/3 浅黄橙	やや粗 2mm以下の石英·長石含む	良
186	弥生土器 鉢	50	SD17	29.6		(4.8)	ナデ	ヨコヘラケズリのちナデ	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぷい橙	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
187	弥生土器	50	SD17			(2.7)	ナデ	指頭圧	5YR6/6 橙	やや密	良好
188	小型丸底土器 弥生土器	50	SD17		10.0	(4.6)	ナデ	指頭圧	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	やや密	良
<u> </u>	小型丸底土器	_				-	マメツ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	2mm以下の石英・長石含む 粗	+
189	小型丸底土器	50	SD17	9.0	3.8	6.2			7.5YR6/6 橙	3mm以下の石英·長石含む	良
190	大型鉢	50	SD17	38.4		(6.0)	ヨコヘラケズリ	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐 10YR5/3 にぶい黄褐	粗  5mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
191	弥生土器 大型鉢	50	SD17	38.2		(6.3)	ヨコヘラケズリ	ナデ	7.5YR5/6 明褐 7.5YR7/4 にぶい橙	粗 3mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
192	弥生土器	50	SD17		4.1	(6.4)	タテヘラミガキ	指頭ナデ	2.5YR5/6 明赤褐	やや密	良
193		50	SD17		5.4	(6.1)	カニュニデナ	タテヘラケズリ	N1.5/0 黒 10YR3/2 黒褐	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む やや粗	良
193	底部 弥生土器						タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	7.5YR4/3 褐 10YR4/2 灰黄褐	2mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む やや粗	+
194		50	SD17		5.8	1 (3.5)	バーントルエ	121 12109	10YR6/4 にぷい黄橙		良好

	弥生土器 底部	50	SD17		6.3	(2.4)	マメツ	タテヘラケズリ	N3/0 暗灰 10YR5/4 にぶい黄褐	やや粗	良好
	成 即 弥生土器	50	SD17		6.9	(2.7)	マメツ	タテヘラケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐	2ミリ以下の石英・長石・角閃石含む やや密	良好
	底部 弥生土器						ナデ	タテヘラケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐 2.5Y4/1 黄灰	1mm以下の石英・長石含む やや粗	
197	底部	50	SD17		4.5	(1.5)		31117729	10YR5/4 にぶい黄褐	1mm以下の石英・長石含む	良好
	弥生土器 底部	50	SD17		8.0	(2.5)	マメツ	タテヘラケズリ	2.5Y5/2 暗灰黄 7.5YR5/3 にぶい褐	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良
	<sup>医 印</sup> 弥生土器	50	SD17		3.4	(4.2)	ナデ	指頭圧	10YR8/3 浅黄橙	粗	良
	底部 弥生土器	30	3017		3.4	(4.2)	マメツ	指頭圧	10YR8/2 灰白 7.5YR6/4 にぶい橙	3mm以下の石英・長石含む	
	55年工品 底部	50	SD17		4.1	(2.0)	470	拍與圧	7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗 5mm以下の石英·長石含む	良
	弥生土器 底部	50	SD17		3.8	(2.3)	マメツ	指頭圧	5YR6/6 橙	やや粗	良
	<sup>医 印</sup> 弥生土器	50	SD17		7.0	(1.6)	ナデ	指頭圧	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR7/3 にぶい橙	2mm以下の石英・長石含む 密	良好
$\vdash$	底部 弥生土器				7.0		マメツ	指頭圧	7.5Y4/1 灰白 10YR4/3 にぶい黄褐	3mm以下の石英・長石含む	RXT
	底部	50	SD17		4.8	(1.6)	<b>4</b>	相與江	10YR6/4 にぶい黄橙		良
	弥生土器 底部	50	SD17		3.8	(3.1)	ナデ	指頭圧	10YR7/2 にぶい黄橙 2.5Y7/2 灰黄	やや密 2mm以下の石英・長石含む	良好
	弥生土器	50	SD17		2.0	(1.9)	ナデ	指頭圧	10YR7/3 にぶい黄橙	密	良
	底部 弥生土器		-		2.0		指頭圧		10YR7/2 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	1mm以下の石英・長石含む やや粗	
	底部	50	SD17		4.2	(3.0)	相與几	1日現 ) )	10YR7/3 にぶい黄橙	5mm以下の石英·長石含む	良
	弥生土器 底部	50	SD17		4.2	(3.2)	ナデ	板ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR6/3 にぶい黄橙		良好
	弥生土器	50	SD17		5.6	(4.0)	マメツ	マメツ	5YR6/6 橙	やや粗	良
	底部 弥生土器						マメツ	マメツ	10YR7/4 にぶい黄橙 7.5YR5/6 明褐	2mm以下の石英・長石含む やや密	+
209	底部	50	SD17		6.4	(2.6)			7.5YR1.7/1 黒	1mm以下の石英・長石・角閃石含む	良好
	弥生土器 底部	50	SD17		4.6	(2.5)	マメツ	マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙 2.5Y7/2 灰黄	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良
	弥生土器	50	SD17		5.0	(2.0)	マメツ	マメツ	10YR8/3 浅黄橙	密	良好
$\vdash$	底部 弥生土器						マメツ	マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙 7.5YR5/3 にぶい褐	1mm以下の石英・長石含む 粗	
	底部	50	SD17		9.0	(2.6)	(7-)	(7.7	7.5YR5/4 にぶい褐	1mm以下の石英·長石含む	良
	弥生土器 底部	50	SD17		1.4	(8.0)	ナデ	タテヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR6/4 にぶい橙	粗 2mm以下の石英・長石含む	良
214	土師器	51	SD17	16.7		(6.6)	ナデ	ヨコハケ	5YR7/4 にぶい橙	やや密	良好
$\vdash$	土師器						ナデ	接合痕   ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙	4mm以下の石英·長石含む 密	<b>-</b>
213	坏	51	SD17	14.2		(2.8)			7.5YR7/4 にぶい橙	1mm以下の石英·長石含む	良好
	土師器 坏	51	SD17	12.9		(3.4)	マメツ	マメツ	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	やや密 3mm以下の石英・長石含む	良
	土師器	51	SD17	11.8	6.0	3.1	マメツ	マメツ	10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗	良
	坏 土師器		0013				指頭圧	板ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙 5YR5/6 明赤褐	2mm以下の石英・長石含む やや密	<del> </del>
218	坏	51	SD17	9.2	5.0	5.3	接合痕		5YR5/6 明赤褐	2mm以下の石英·長石含む	良
	土師器 高杯	51	SD17			(6.2)	マメツ	ヨコヘラケズリ	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/6 橙	密  1mm以下の石英・長石含む	良
220	土師器	51	SD17			(7.9)	ナデ	ヨコヘラケズリ	10YR8/3 浅黄橙	やや粗	良
	高杯 土師器	E 1	CD17			(5.1)	ナデ	絞り痕・接合痕   ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR6/6 橙	2mm以下の石英・長石・雲母含む やや粗	-
	高杯	51	SD17			(5.1)		絞り痕	7.5YR6/6 橙	2mm以下の石英・長石含む	良
	土師器 高杯	51	SD17			(5.5)	ナデ 	ヨコヘラケズリ 接合痕	5YR6/6 橙 7.5YR8/3 浅黄橙	やや粗 3mm以下の石英・長石含む	良好
	土師器	51	SD17		10.0	(7.0)	ナデ	ヨコヘラケズリ	5YR4/4 にぶい赤褐	やや密	良
	高杯 須恵器	51	SD17	14.6		(5.4)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	 回転ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐 5Y6/1 灰	1mm以下の石英・長石含む 密	良
	蓋	51	5017	14.0		(3.4)			5Y7/1 灰白 7.5Y6/1 灰	1mm以下の石英・長石含む	艮
	須恵器 蓋	51	SD17	14.0		(2.7)	回転ナデ	回転ナデ	7.5Y7/1 灰 7.5Y7/1 灰	密  1mm以下の石英・長石含む	良好
	不明 土製品	51	SD17			2.1	ヘラケズリ		7.5YR8/3 浅黄橙	やや粗	良
	土師器	54	SD20		9.6	(2.0)	マメツ	マメツ	7.5YR8/3 浅黄橙 2.5YR5/8 明赤褐	2mm以下の石英・長石含む 密	良
221	高杯						マメツ	マメツ	2.5YR5/8 明赤褐 2.5YR5/6 明赤褐	1mm以下の石英・長石含む やや密	I R
	弥生土器 底部	54	SD20		6.6	(2.0)			7.5YR6/3 にぷい褐	2mm以下の石英・長石角閃石含む	良好
	須恵器 蓋	54	SD20	13.3		(4.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	10BG5/1 青灰 N6/0 灰	密 1mm以下の石英・長石含む	良好
230	弥生土器	55	SD23	16.8		(3.6)	マメツ	指頭圧	10YR5/3 にぷい黄褐	やや密	良好
	甕 弥生土器		-	. 5.5			タタキ	指頭圧	10YR5/3 にぶい黄褐 5YR7/4 にぶい橙	1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母含む やや粗	
231	底部	55	SD23		3.8	(5.4)			10YR7/2 にぷい黄橙	2mm以下の石英·長石含む	良
	土師器 坏	55	SD23	18.2		(2.2)	マメツ	マメツ	7.5YR7/4 にぶい橙 2.5Y8/2 灰白	やや密 1mm以下の石英・長石含む	良好
$\Box$	*I'						L		14.010/4 次口	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1

木器観察表

<u> </u>	日本ルカトン								
番号	号 器種 図版 遺構名			法量(cm)		—————————————————————————————————————			
田石	46个里	凶加	退佣石	長	幅	厚			
W1	ミカン割材	51	SD17	18.7	5.6		ほぼ樹皮まで残る。わずかに加工痕が残る。		
W2	ミカン割材	51	SD17	44.6	4.7	4.9	ほぼ樹皮まで残る。わずかに加工痕が残る。		
W3	板材	51	SD17	47.9	8.8		やや厚めの板材。先端部は焼けて炭化している。		
W4	板材	52	SD17	35.4	3.0		薄い板材。わずかに加工痕残る。		
W5	板材	52	SD17	42.3	3.4		薄い板材。わずかに加工痕残る。		
W6	板材	52	SD17	55.0	4.2		薄い板材。わずかに加工痕残る。		
W7	弓	52	SD17	104.8	3.0	2.2	加工痕認められないが、弧状に彎曲		

石器観察表

	H H/U //\ \_\							
番号	器種	図版	遺構名		法量(cm)		重量(g)	特 徵
田石	布产作生	IZI NIX	退得有	長	幅	厚	主里(8/	113 184
S1	削器	20	SK8	4.3	2.9	0.5	5.2	背部は敲打による調整を行うが、刃部は未調整。
S2	剥片	24	SP1	6.8	4.4	0.8	24.1	片面は全面に剥離。裏面は細かい剥離が認められる。
S3	剥片	30	SD6	7.2	4.2	0.8	19.8	片面は全面に剥離。裏面は上下2回の剥離が認められる。
S4	石鏃	45	SD17	3.5	2.0	0.6	2.7	基部を欠く。両面より調整。
S5	石鏃	45	SD17	3.9	4.0	0.4	6.0	わずかに錐と推定できる突出部を残す。
S6	石鍬	47	SD17	4.7	5.9	1.4	56.5	両面より大きい調整を施す。
S7	石鏃	51	SD17	2.8	1.6	0.2	1.2	平基式。刃部の調整は粗い。



写真 1 試掘状況 (3Tr)



写真 2 試掘状況 (9Tr)



写真 3 機械掘削状況



写真 4 遺構検出状況



写真 5 調査区北東部完掘状況(北から)

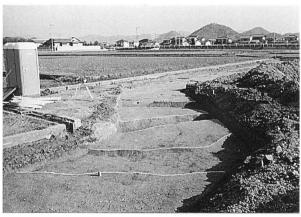


写真 6 調査区東部中央完堀状況(北西から)



写真 7 調査区南東部完掘状況(北から)



写真8 調査区南東部完掘状況(南から)



写真 9 調査区南部完掘状況(西から)



写真 10 調査区西部完掘状況(南から)



写真 11 調査区西部完掘状況(北から)

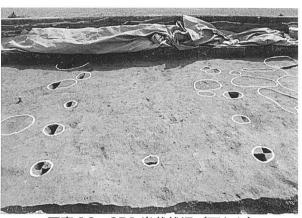


写真 12 SB1 半裁状況 (西から)

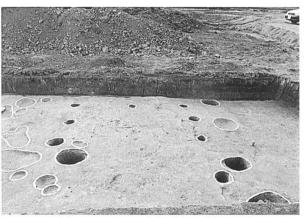


写真 13 SB1 完掘状況(東から)

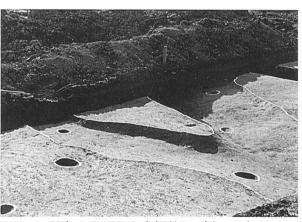


写真 14 SB2 完掘状況(東から)

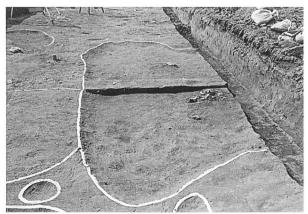


写真 15 SK8 断面(北から)



写真 16 SK8 土器出土状況(南から)

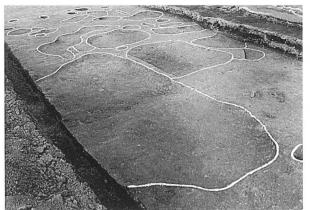


写真 17 SK8 完掘状況(南から)



写真 18 SP1 土器出土状況 (西から)



写真 19 SP15 土器出土状況 (南から)

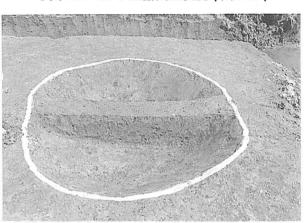


写真 20 SK18 断面(南から)

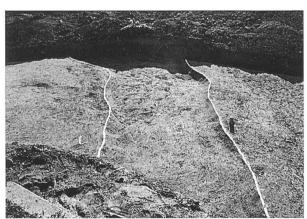


写真 21 SD1 完掘状況 (東から)

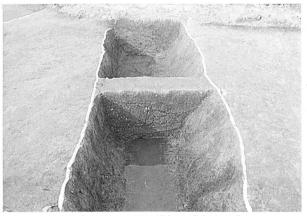


写真 22 SD2 断面 (東から)





写真 24 SD3・4・SB2 断面(東から)



写真 25 SD8 完掘状況(南西から)



写真 26 SD9 完掘状況(南西から)

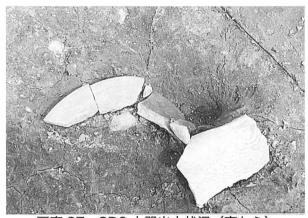


写真 27 SD9 土器出土状況(南から)



写真 28 SD10 完掘状況 (南から)



写真 29 SD10 断面(南から)



写真 30 SD11 完掘状況(南から)

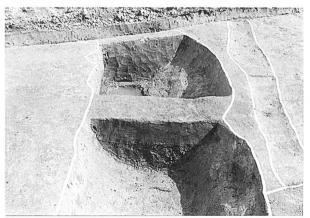


写真31 SD15断面(南から)

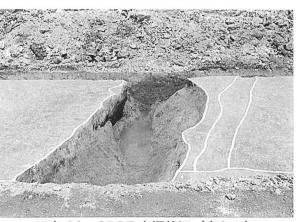


写真 32 SD15 完掘状況 (南から)



写真 33 SD16・17 完掘状況(南東から)

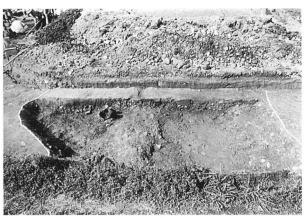


写真 34 SD17 南部断面(南から)



写真 35 SD17 南部完掘状況(南から)



写真 36 SD17 土器 32 出土状況 (南から)



写真 37 SD17 完掘状況 (南から)



写真 38 SD17 中部断面(南から)

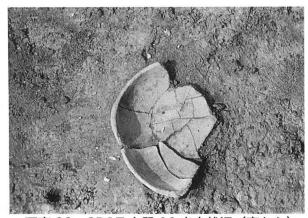


写真 39 SD17 土器 66 出土状況(南から)



写真 40 SD17 土器 37 出土状況 (南から)

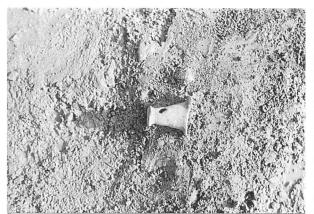


写真 41 SD17 土器 64 出土状況 (西から)



写真 42 SD17 北部断面 (南から)



写真 43 SD17 完掘状況(南から)



写真 44 SD17 完掘状況 (北から)



写真 45 SD17 完掘状況 (北東から)



写真 46 SD17 掘削状況 (南から)

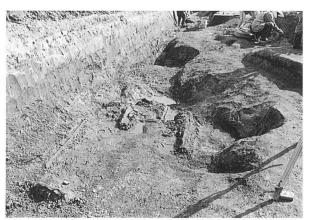


写真 47 SD17 木器出土状況(北から)



写真 48 SD17 土器 69 出土状況 (東から)



写真 49 SD17 土器 126 出土状況 (南から)



写真 50 SD17 土器 149 出土状況 (南から)



写真 51 SD17 土器 213 出土状況 (南から)

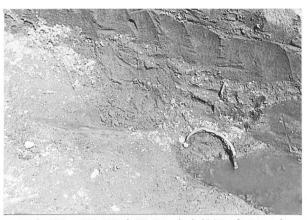


写真 52 SD17 土器 89 出土状況 (西から)



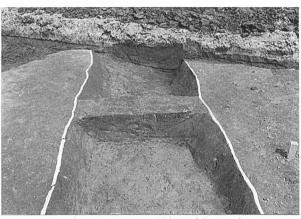


写真 54 SD24 断面(東から)



写真 55 墳礫 1・2 断面(東から)



写真 56 墳礫 4 断面(東から)

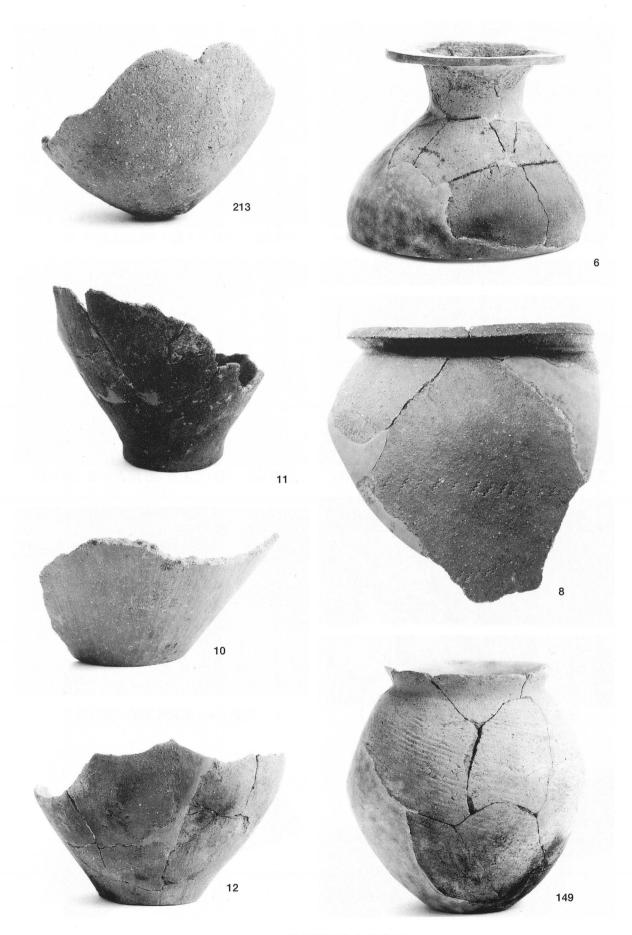


写真 57 松林遺跡出土遺物①

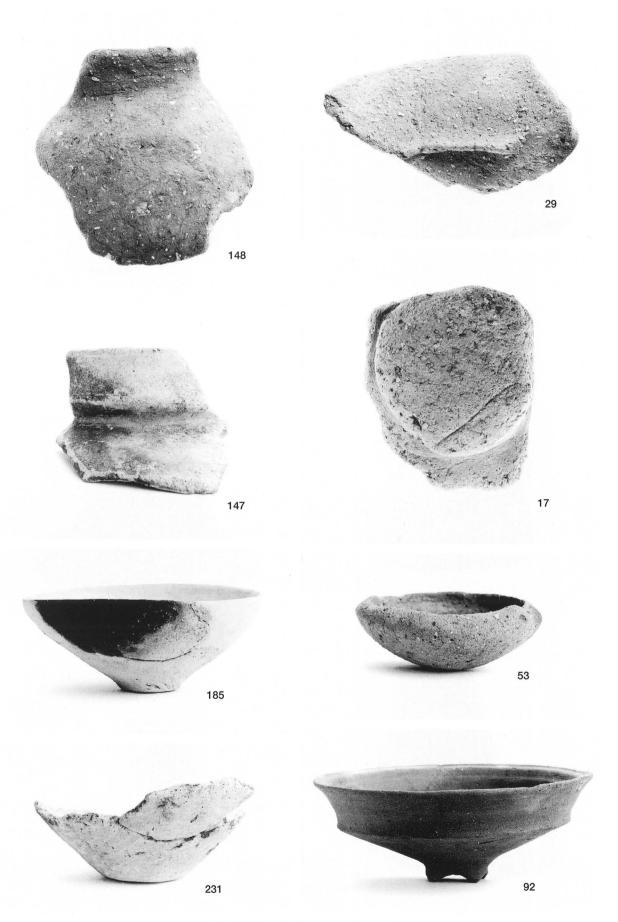


写真 58 松林遺跡出土遺物②

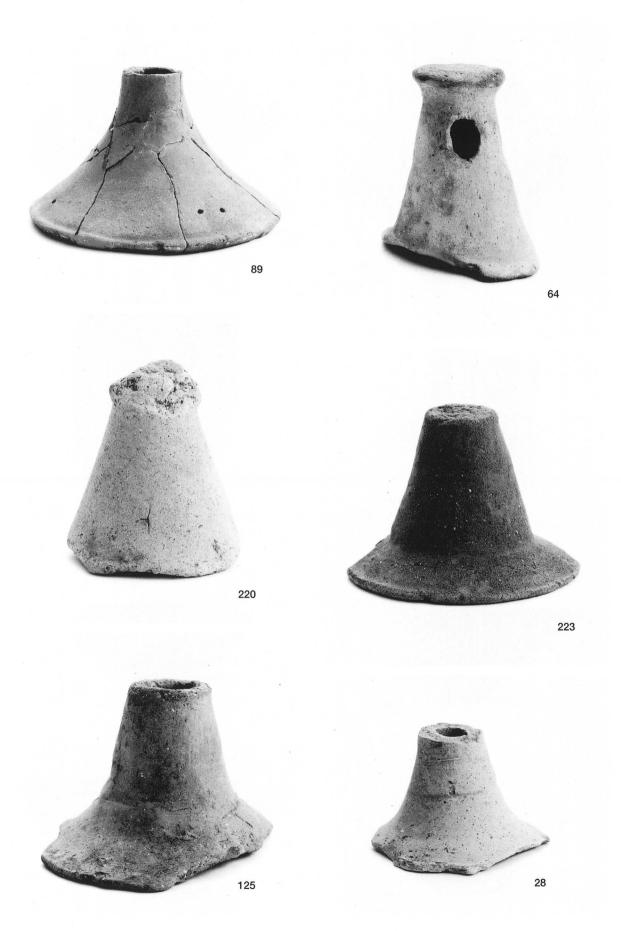


写真 59 松林遺跡出土遺物③

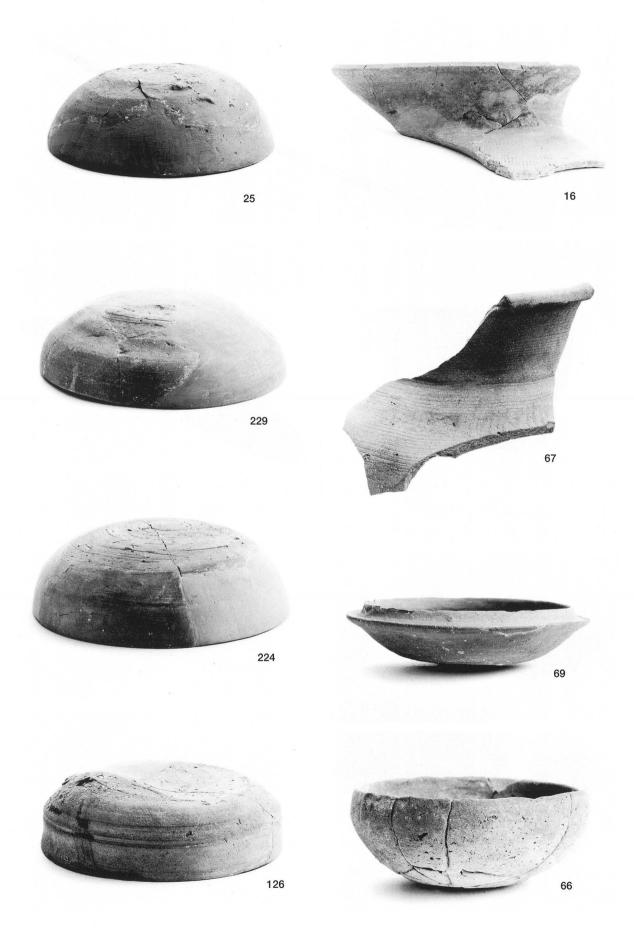


写真 60 松林遺跡出土遺物④

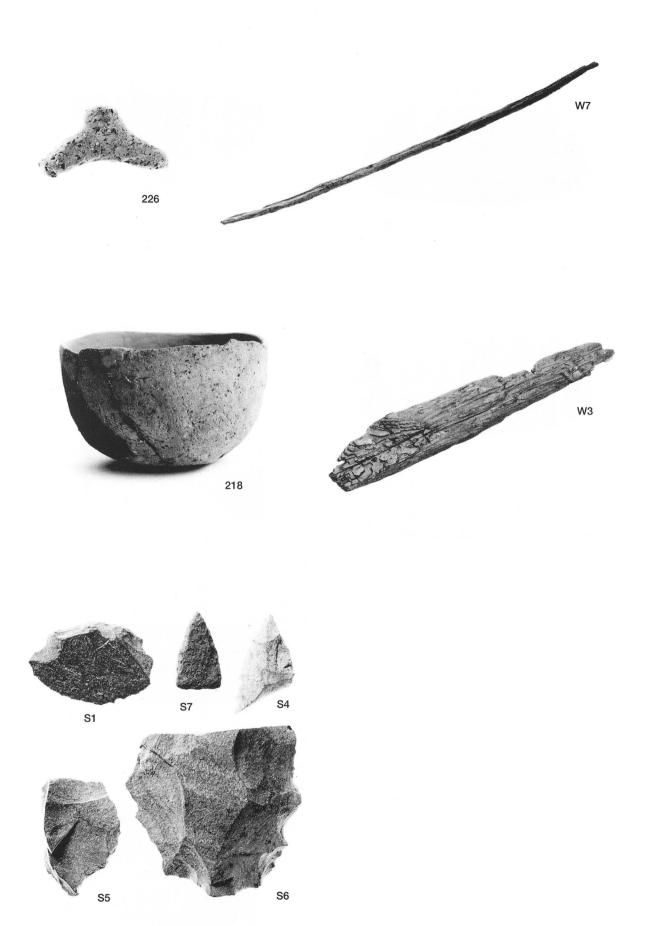


写真 61 松林遺跡出土遺物⑤

## 報告書抄録

ふりがな	まつばやしいせき										
書名	松林遺跡(第2次調査)										
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書										
巻次											
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告										
シリーズ番 号	第 77 集										
編著者名	大嶋 和則										
編集機関	高松市教育委員会										
所 在 地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087-839-2636										
発行年月日	西暦 2004 年 9 月 30 日										
ゕヮゕ゙ぉ 所収遺跡名	lælits 所在地	コー 市町村	-ド 遺跡番号	北緯。///		東経 / "	調査期間	- 1	調査 面積	調査原因	
*>ばやいせき 松林遺跡	かがわれ 香川県 たがまっし 高松市 たびかみまち 多肥上町	37201		34° 17′ 30″		.34° 03′ 20″	2004.4.1 ~4.12	81	00 m²	宅地造成	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物			特記事項		
松林遺跡	集落	弥生		土坑 ピット		弥生土器 石器			噴礫		
		古墳		溝		須恵器 土師器					
		奈良以降		掘立柱建物							
		近世		溝 土坑		陶磁器					

## 松林遺跡

第2次調査

一 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

平成16年9月30日

編 集 高松市教育委員会

高松市番町一丁目8番15号

発 行 高松市教育委員会

㈱ユーリックホーム

印 刷 有限会社中央ファイリング